高校アーチェリー会報

第6号



全国高体連アーチェリー専門部

1992年4月

総合技術で未来をひらく
三菱重工

新しいおつきあいを始めたい。

ビジネスの新たな展開をお考えのみなさまへ。
三菱から、菊四郎がごあいさつ申し上げます。

三菱重工業株式会社
商業印刷機械部

菊四郎
DAIYA

なんでも、刷りものは、どんどんコンパクトへ、多彩な色へ、高品位へと進んでいる昨今。いよいよ私の出番です。逆くの字型胴配列や倍径圧胴・中間胴など、品質を維持する伝統の機構をきちんと継承。さらに、数々の自動化装置や本格的なストリームフィーダ、ハイバイル構造など、大型機並の機能が自慢です。新しい分野でのおつきあいをお考えのみなさまへ。私、菊四郎がよき右腕として、みなさまのお供をいたします。

三菱オフセット枚葉印刷機
DAIYA OF 菊四裁判用



クイック アンド クオリティ
Q&Q
三菱の印刷機械

三菱重工業株式会社　本社　産業機械事業本部　商業印刷機械部　東京都千代田区丸の内2-5-1 〒100 ☎東京(03)3212-3111
大阪支社　枚葉印刷機械課　大阪市北区中之島2-2-2(ニチメンビル)　☎(06)201-2652
エムエルピー大阪㈱　〒564 大阪府吹田市江坂町1-13-41　☎(06)821-0015

目　　次

巻頭言　　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　部　長　松崎　洋右 …… 2
委員長挨拶　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　委員長　薮内　　徹 …… 3
沿革 …… 4
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　顧問・監事一覧 …… 5
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　役員名簿一覧 …… 6
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　委員名簿一覧 …… 7
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届の流れについて …… 8
登録届記入法 …… 9
指定都道府県番号表 …… 10
全国高体連アーチェリー専門部会員登録届出用紙見本 …… 11
学校登録一覧 …… 12
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録状況一覧 …… 22
1991ジュニアチーム海外派遣　　關　　政敏 ・ 立入　彰修 ・ 五百蔵正雄 …… 23
学校紹介　帯広三条高校・鶴岡南高校 …… 39
1991全国選手権大会優勝校紹介　　同志社高校・折尾高校 …… 43
全国選手権大会栄光のあゆみ　同大会記録 …… 50
全国選抜大会栄光のあゆみ　同大会記録 …… 52
日本高校記録 …… 53
ＦＩＴＡ世界記録・日本記録 …… 54
大会開催地・開催順 …… 55
インターハイはかく戦われる …… 56
記録収集について …… 59
高校公認記録規程 …… 62
記録承認申請書様式 …… 64
服装規定について …… 66
大会実施要項に記載すべき内容 …… 69
大会プログラム作成の基準について …… 71
全国高体連アーチェリー専門部規約 …… 77
総務委員会規程 …… 80
競技委員会規程 …… 81
審判委員会規程 …… 82
強化委員会規程 …… 83
事務局規程 …… 84
アーチェリー専門部表彰規程 …… 85
アーチェリー専門部慶弔規程 …… 86
口座番号・斡旋物資についての問い合わせ先 …… 87
あとがき …… 88

巻　頭　言

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
部長　松崎洋右



全国高体連アーチェリー専門部関係各位の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

平成３年は役員改選の年で、長きにわたり専門部委員長を努めてこられた、広島県の清本先生が退職され、新委員長に選出された滋賀県の薮内先生を中心とした新体制による「再出発の年」となりました。

新体制の専門部に課せられたことは、若さと情熱のある先生が意欲をもって活躍できる場を拡げ、新風をつねに吹き込みさらに組織の充実を計ることにあります。又、年々技術が向上し大変素晴らしい選手が育って来ておりますが、高校アーチェリー選手達が世界の舞台でも活躍する時を願い、さらに一層の強化が必要であると思います。そして加盟都道府県各チーム一人一人の生徒たちがアーチェリーを通じて楽しさを味わえるように、きめこまやかな指導普及と大会運営に努力せねばなりません。

高体連に結集している先生方は選手と共に悩み、苦しむ日々が多いわけですが、選手諸君によりよい環境を提供すべく、委員長を中心に、専門部委員の一人一人が我意をすて、一致協力することによりさらに前進していこうではありませんか。

スポーツには、個人の趣味としての「するスポーツ」、教育としての「学校スポーツ」のほかに、もう一つ「ハイ・レベル・スポーツ」というべきものがあります。各大会の「優勝」を目標に努力する、すぐれたスポーツマンは、いわば人間の限界に挑戦する代表選手ですから、そういう素質ある選手を見いだし、育成し、世に送り出すことは、やり甲斐のある仕事です。

学校は教育としての「学校スポーツ」をするところです。同時に、日本におけるスポーツの成立の歴史からして、学校は「するスポーツ」のためにも、「ハイ・レベル・スポーツ」のためにも重要な役割を持っています。専門部の皆さんの、各方面にわたる一層のご活躍を祈ってやみません。

委員長あいさつ

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
委員長　薮内　徹
（滋賀県立伊吹高）



新たな季節の始まりとともに、そぞろアーチェリーの虫たちも騒ぎだし、ひととき育み熟成された思いを弾まんと、日々それぞれには鋭意ご精進のことと存じます。各地の高体連加盟状況も徐々に進展し、新たに福島・富山・和歌山・大分の各県では念願の萌芽音を響かせ、明年の高校総体には総勢30都道府県の仲間と背筋を伸ばし、記念の第一歩を踏みだすことになりました。

本専門部では、高校総体の競技方法や運営の骨格もほぼ煮詰め、４月初旬に全国高体連の各委員会へ申請し、秋にはご承認を得られる段階にまでこぎつけました。あわせて、選抜大会の競技方法も、過去の経緯を踏まえ新たな方向での改善に着手しましたが、これら一連の計らいによって少しでもアーチェリーの普及振興と競技力向上に、若い力の伸展や兆しが膨らむのではないかと、大いに期待するところです。

また、競技力向上の一環として、指導者の資質向上と交流研修に対する事業案も担当委員会で練られており、アーチェリーの裾野を広げ資質を伸びるだけ伸ばし、国際的に活躍できる選手層育成のため、長期ビジョンの確立をめざしています。その他、総務・審判部門でも組織の充実を推し進めるなかで、遂次出来るものから各県専門部へ連絡依頼し、新たな試みをバネにして全体の飛躍を望んでいます。

最後になりましたが、大役を仰せつかり責任の重大さを痛感しながら、瞬く間に１年が過ぎ去りました。これまで諸先輩の積み上げられた、アーチェリー競技の輝きを汚すことなく、一同協力し邁進していきたいと考えております。

何卒、前任者に変わらぬご指導ご鞭撻とご支援をお願い申し上げます。

沿　革

昭和13年	・アメリカから帰国した、菅　重義氏により日本にアーチェリーが紹介される。
昭和22年	・日本洋弓会が設立される。（愛好者が増加傾向）
昭和34年	・日本アーチェリー協会設立 （学校への活動用具貸与による援助始まる）
昭和37年	・高校生を対象とした近畿総合体育大会が、全国で初めて開催される。
昭和43年	・第１回全国高校アーチェリー競技会開催（東大阪市・旧布施市）
昭和44年	・第２回全国高校アーチェリー競技会開催（静岡県）
昭和45年	・競技会の名称変更「全国高等学校アーチェリー選手権大会」以後より今日に至る。
昭和46年	・選手権参加規定変更・任意参加を各都道府県で２校以内と前年度優勝校に参加を制限。 ・組織を「全国アーチェリー連盟高校部」に改称
昭和49年	・選手権参加規定変更・各都道府県の代表校制に変更、男女１校と前年度優勝校に改正。 ・優勝碑「ダイアナ」（狩猟の女神：ギリシャ神話）が新たに新調される。 （川上源一氏と滋賀県協会の格別の好意により、ブロンズ像制定。） 【制作者：小谷　謙氏・日展会員・京都府在住】
昭和51年	・運営組織のより一層の明確化が図られる。 ・木村好治氏（青森県アーチェリー協会・元名久井農業高校校長）を初代高校部長に選出。 ・改定組織関係役員決定。
昭和52年	・選手権参加規定変更・団体出場校以外の学校より、個人選手の参加を認める。
昭和53年	・大会開催基準・運営細則に関する全面的な見直し、改正に着手。 （協会主導の運営から、高校サイドへの移行に伴い）
昭和54年	・部長、理事長制及び各都道府県ブロックの実情に即した常任理事や代表理事制を取り入れる。初代理事長に中田　昇氏を選出。 ・全国大会記録集創刊
昭和54年	・全国高体連加盟に向け、高体連旗・表彰等の使用申請の働き掛けが始まる。
昭和55年	・全国高体連へ加盟申請する。 ・中田　昇氏　二代目高校部長に選出。 ・総務・競技・強化・事務局の４部門を設定し、積極的な組織運営策の取組が始まる。
昭和56年	・全国選手権大会開催方針変更・大会経費内部負担の軽減・大会運営への地元高校への協力要請 ・専門部設置県の増加を目指し、各地で運動広がる。

昭和57年	・小笠原朋憲氏三代目高校部長に選出。高体連加盟申請継続
昭和58年	・全国高体連正式加盟への手順決定される。 ・第１回全国高校選抜大会開催（愛知・森林公園） ◎準加盟として競技種目を扱う。 ◎名義共催と全国総体開催期間中の同時開催禁止。 ◎加盟については、おおむね30都道府県で高体連加盟が審議条件または、40都道府県に於いて　実質的な活動の場合。
昭和59年	・組織拡充と事業実施内容等の統一化に向けて運動強化。 ・ジュニア選手の強化並びに全米選手権大会への派遣事業始まる。
昭和61年	・清本　修氏理事長に選出。 ・学校登録指定番号・ランキング制度開始。 ・会報の発刊始まる。
昭和62年	・アーチェリー専門部設置に向けて、各都道府県高体連事務局への意向調査、協力要請を行う。
昭和63年	・全国高体連への加盟承認される。（５月） ・新組織による常任委員会開催。（伊豆下田市） ・全国高体連専門部規約審議、原案決定。 ・里見勝人氏（淑徳高校校長）四代目高校部長に選出。副部長に松崎洋右氏（大宮開成高）猪飼　彰氏（愛工大名電高）の２名を選出。 ・清本　修氏（可部高校）初代専門委員長に選出。 ・中込恵子（山梨・甲府第一高）オリンピック代表へ。
平成元年	・五代目高校部長　松崎洋右氏（大宮開成高）を選出
平成２年	・副部長に越田　稜氏（学習院高）を選出。清水　修氏退職にともない、４月より藪内徹氏（伊吹高校）が専門委員長を代行する。
平成３年	・４月　藪内徹氏（伊吹高校）２代目専門委員長に選出。 ・７月　第１回ジュニア世界選手権大会（ノルウェー）へ選手派遣。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部顧問・監事

（1991～1992）平成４年２月現在

役職名		氏名	所在地		学校名	電話	FAX
顧問		木村　好治	〒039-15青森県三戸郡五戸町天満後44-6		元全国高校部長	0178-62-3223	
		小笠原朋憲	〒153　東京都目黒区駒場1-35-32		元全国高校部長	03-3467-2130	
		里見　達人	〒174　東京都板橋区前野町5-14-1		前全国高校部長	03-3969-7411	
		清本　修	〒731-03広島県高田郡八千代町上根827-2			0826-52-3606	
監事	監査	若林　武正	関東	〒235　横浜市磯子区岡村2-4-1	横浜学園高	045-751-6941	
	監査	神谷　育考	近畿	〒602　京都市上京区今出川通寺町西入	同志社女子高	075-251-4305	

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部役員名簿

(1991～1992) 平成４年２月現在

役職名		氏名	所在地			学校名	電話	FAX
部長		松崎 洋右	〒330	埼玉県大宮市堀之内1-615		大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
副部長		猪飼 彰	〒464	名古屋市千種区若水3-2-12		愛知工大名電高	052-721-0311	052-711-4620
		越田 稜	〒171	東京都豊島区目白1-5-1		学習院高等科	03-3986-0221	03-5992-1016
委員長		薮内 徹	近畿	〒521-02滋賀県坂田郡山東町朝日302		伊吹高	0749-55-2350	0749-55-2778
副委員長	総務 強化	田中 康彦	東海	〒465	名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高	052-721-1521	052-723-2254
	競技 審判	雨宮建次郎	関東	〒153	東京都目黒区駒場1-35-32	東京工業高	03-3467-2130	03-3467-2138
常任委員	総務	吉田 五衛	北信越	〒910	福井市御幸2-25-8	高志高	0776-24-5175	0776-24-5177
	総務	松宮 博	関東	〒344	埼玉県春日部市上大増新田213	春日部共栄高	048-737-7611	048-737-8093
	競技	水野慎一郎	東海	〒464	名古屋市千種区若水3-2-12	愛知工大名電高	052-721-0311	052-722-8302
	競技	横山 幹夫	北信越	〒916	鯖江市熊田町10-7	丹南高	0778-62-2112	0778-62-2112
	競技	大庫 柾人	近畿	〒654	神戸市須磨区行幸町2-73	須磨ノ浦女子高	078-731-6637	078-731-6149
	競技	金川 真二	中国	〒731-02広島市安佐北区可部3-15-25		可部高	082-814-2032	082-815-4781
	競技	住友 和雄	四国	〒770	徳島市北矢三町2-1-1	徳島工業高	0886-31-4185	0886-31-1110
	審判	坂本 憲昭	中国	〒744	山口県下松市大字河内114	下松高	0833-41-0157	0833-41-3147
	審判	西出 元	北海道	〒079	北海道旭川市西神楽3-5	旭川工業高	0166-65-4115	0166-65-4127
	審判	日野 正晴	東北	〒997	山形県鶴岡市若葉町26-31	鶴岡南高	0235-22-0061	0235-24-5941
	審判	河野 真一	近畿	〒596	岸和田市額原町	久米田高	0724-43-6651	0724-43-0307
	強化	嶋守 英敏	東北	〒034	青森県十和田市相坂字高清水78	三本木農業高	0176-23-5341	0176-23-5341
	強化	水上 英彦	東海	〒416	静岡県富士市平垣町1-1	富士見高	0545-61-0250	0724-63-5040
	強化	岡部美義男	九州	〒807	北九州市八幡西区大膳2-23-1	折尾高	093-691-3561	093-691-9529
事務局	局長	宮崎 利幌	関東	〒330	埼玉県大宮市堀ノ内1-615	大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
	局員	小坂 純彰	関東	〒171	東京都豊島区目白1-5-1	学習院高	03-3986-0221	03-5992-1016
委員	総務	朝倉 基夫	北海道	〒005	札幌市南区石山１条２丁目15-1	札幌啓北商高	011-591-2040	011-591-2023
	総務	富永 雅博	近畿	〒529-01滋賀県東浅井郡虎姫町宮部2410		県立虎姫高	0749-73-3055	0749-73-7076
	総務	佐幸 修	近畿	〒543	大阪市阿倍野区天王寺町南2-8-19	大阪女子商高	06-719-2801	06-714-0045
	総務	首藤 善	九州	〒870	大分県大分市上野丘2-10-1	県立大分上野丘高	0975-43-6249	0975-46-5400
	競技	勢司 凱雄	北海道	〒062	札幌市豊平区月寒東１条３丁目	札幌月寒高	011-851-3111	011-851-3112
	競技	後藤 明男	関東	〒324-06栃木県那須郡馬頭町1299-2		県立馬頭高	0287-92-2009	0287-92-5749
	競技	西尾 顕	関東	〒290	市原市島野222	県立京葉高	0436-22-2196	
	競技	吉成 謙	関東	〒400	甲府市美咲2-13-44	甲府第一高	0552-53-3525	0552-53-3527
	競技	中村 司	北信越	〒920-01金沢市大場町東590		金沢向陽高	0762-58-2355	0762-58-3592
	競技	浦田 照行	北信越	〒937	魚津市浜経田3338	魚津工業高	0765-22-2577	0765-22-2578
	競技	山根 俊一	中国	〒682	倉吉市大谷166	倉吉農業高	0858-28-1341	0858-28-1342
	競技	後藤 浩	中国	〒718	新見市新見2032-4	新見女子高	0867-72-0526	0867-72-8988
	競技	大塚 敬輔	九州	〒856	大村市森園町1079-3	大村工業高	0975-52-3773	0975-52-3773
	審判	本間 俊弘	東北	〒977	福島県田村郡三春町字持合畑135	田村高	0247-62-2185	
	審判	佐藤 功	関東	〒378	沼田市東倉内町753-3	沼田女子高	0278-22-4495	
	審判	藤森 友則	中国	〒742-15山口県熊毛郡布施町麻郷奥127		田布施工業高	0820-48-2306	
	審判	堤 幸祐	九州	〒874-01別府市野田78		別府女短付属	0977-66-0224	0977-67-8133

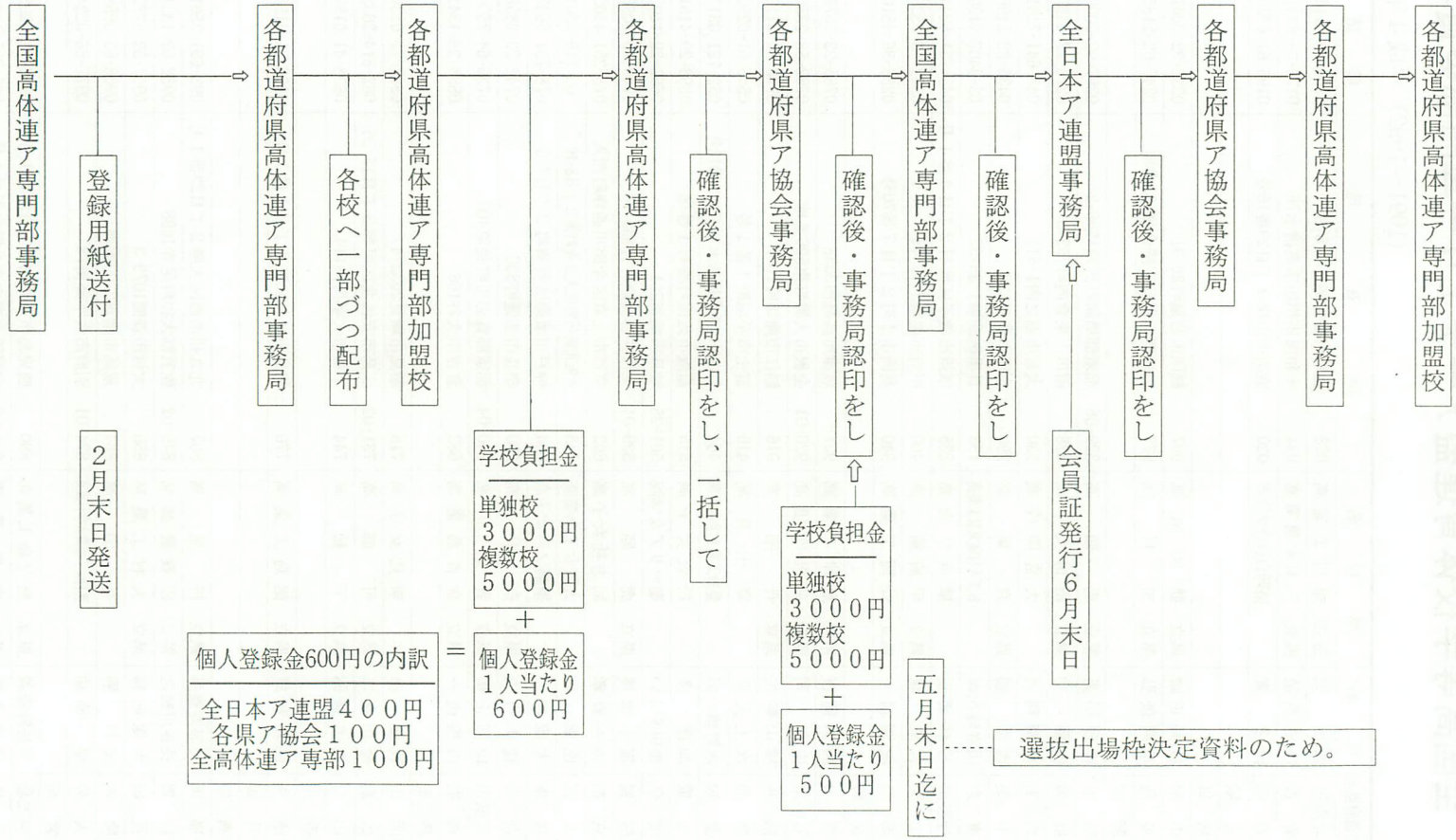
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部委員名簿

(1991～1992) 平成４年２月現在

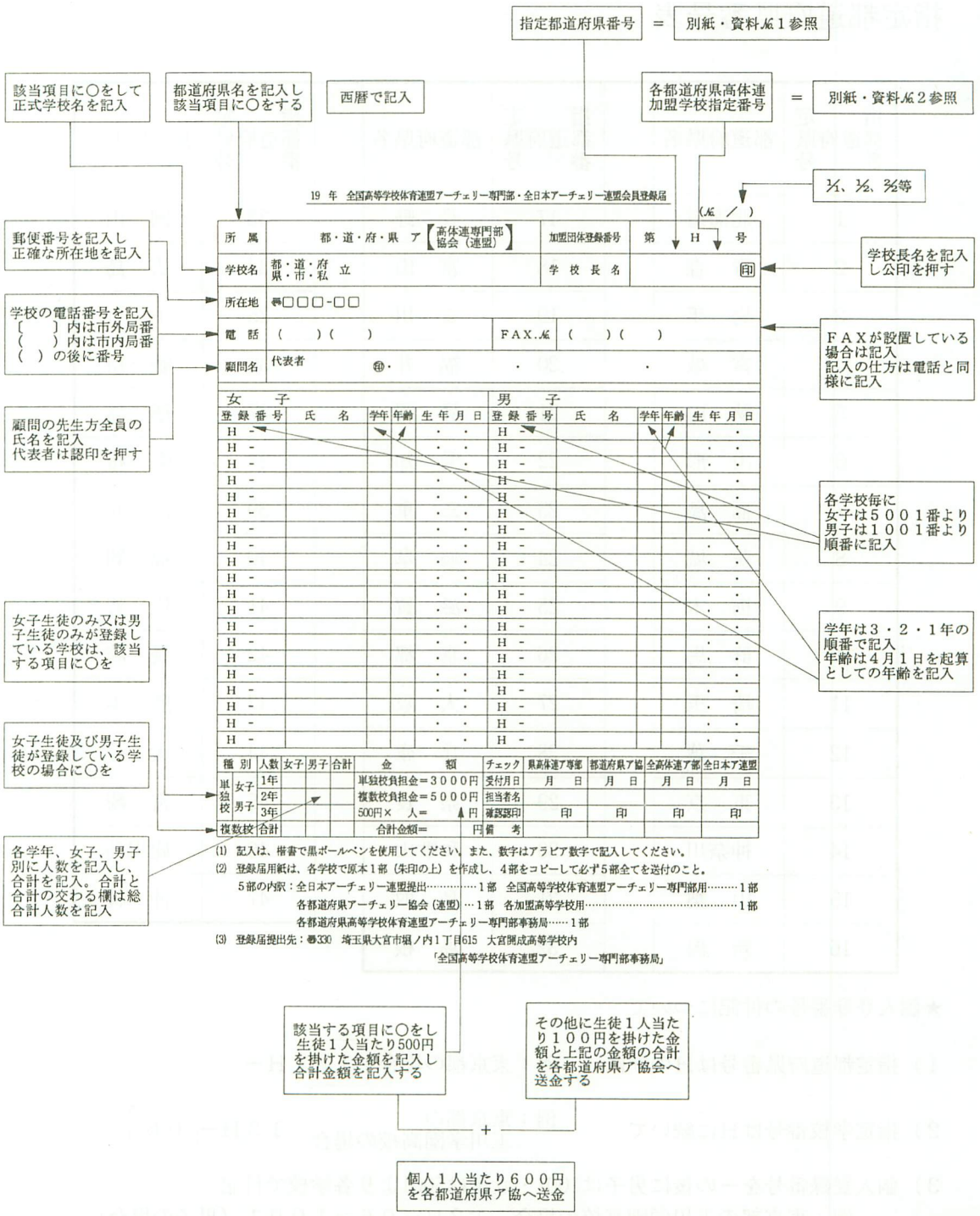
	都道府県名	氏　名	学　校　名		所　在　地	電　話	ＦＡＸ
1	北海道	西出　元	道立　旭川工業高	078	旭川市西神楽３線５号	0166-65-4115	0166-65-4127
2	青　森	嶋守英敏	県立　三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3	岩　手	田中　實	盛岡白百合学園高	020	盛岡市山岸４丁目29番16号	0196-61-6330	
4	宮　城						
5	秋　田						
6	山　形	日野正晴	県立　鶴岡南高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
7	福　島	本間俊弘	県立　田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-3385
8	茨　城						
9	栃　木	後藤明男	県立　馬頭高	329-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
10	群　馬	佐藤　功	県立　沼田女子高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	
11	埼　玉	宮崎利幀	大宮開成高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
12	千　葉	西尾　顕	県立　京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	
13	東　京	雨宮建次郎	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2138
14	神奈川	若林武正	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村２丁目４番１号	045-751-6941	045-761-7956
15	山　梨	吉成　謙	県立　甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16	新　潟	坂西精一	県立　長岡工業高	940	長岡市幸町２丁目７番70号	0258-36-4510	
17	長　野						
18	富　山	浦田照行	県立　魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
19	石　川	中村　司	県立　金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
20	福　井	横山幹夫	県立　丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2112
21	静　岡	水上英彦	富士見高	416	富士市平垣町１番１号	0545-61-0250	0545-63-5040
22	愛　知	水野慎一郎	愛知工業大学名電高	464	名古屋市千種区若水３丁目２番12号	052-721-0311	052-722-8302
23	三　重	加藤　多	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村１番地	0598-29-4151	0598-29-6944
24	岐　阜	福田やよい	聖マリア女学院	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
25	滋　賀	富永雅博	県立　虎姫高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
26	京　都	神谷育孝	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入	075-251-4305	075-251-4308
27	大　阪	佐幸　修	大阪女子商業高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南２丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28	兵　庫	大庫柾人	須磨ノ浦女子高	654	神戸市須磨区行幸町２丁目7-3	078-731-6637	078-731-6149
29	奈　良	鞍本哲夫	県立　奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30	和歌山	山岡正樹	県立　貴志川高	640-04	那須郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
31	鳥　取	山根俊一	県立　倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
32	島　根						
33	岡　山	後藤　浩	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
34	広　島	金川真二	県立　可部高	731-02	広島市安佐北区可部３丁目15-26	082-814-2032	082-815-4781
35	山　口	坂本憲昭	県立　下松高	744	下松市大字河内114	0833-41-0157	0833-41-5645
36	香　川						
37	徳　島	住友和雄	県立　徳島工業高	770	徳島市北矢三町２丁目１番１号	0886-31-4185	0886-31-1110
38	愛　媛						
39	高　知						
40	福　岡	岡部美義男	県立　折尾高	807	北九州市西区大膳２丁目23番１号	093-691-3561	093-691-9529
41	佐　賀	長谷川紘之	県立　佐賀農芸高	849-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	
42	長　崎	大塚敬輔	県立　大村工業高	856	大村市森園1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
43	熊　本	友口　勝	有明高	864	荒尾市増永2200番地	0968-63-0958	0968-64-1366
44	大　分	堤　幸祐	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-66-0224	0977-67-8133
45	宮　崎						
46	鹿児島	下長野隆義	県立　鹿児島工業高	890	鹿児島市草牟田２丁目57番１号	0992-22-9205	0992-22-9206
47	沖　縄	島袋盛範	県立　宜野湾高	901-22	宜野湾市真志喜２町目25番１号	098-897-1020	

全国高等学校体育連盟ア専門部・全日本ア 連盟　登録届用紙の流れについて

平成４年度用



登録届記入方法



所属	都・道・府・県 ア【高体連専門部 協会（連盟）】	加盟団体登録番号	第 H 号
学校名	都・道・府 県・市・私 立	学校長名	印
所在地	〒□□□-□□		
電話	( )( )	FAX.№	( )( )
顧問名	代表者 ㊞・ ・ ・		

女子 登録番号	氏名	学年	年齢	生年月日	男子 登録番号	氏名	学年	年齢	生年月日
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・
H -				・ ・	H -				・ ・

種別		人数	女子	男子	合計	金額	チェック	県高体連ア専部	都道府県ア協	全高体連ア部	全日本ア連盟
単独校	女子	1年				単独校負担金＝３０００円	受付月日	月 日	月 日	月 日	月 日
		2年				複数校負担金＝５０００円	担当者名				
	男子	3年				500円× 人= 円	確認認印	印	印	印	印
複数校		合計				合計金額= 円	備考				

(1) 記入は、楷書で黒ボールペンを使用してください。また、数字はアラビア数字で記入してください。
(2) 登録届用紙は、各学校で原本１部（朱印の上）を作成し、４部をコピーして必ず５部全てを送付のこと。
5部の内訳：全日本アーチェリー連盟提出……１部 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部用……１部
各都道府県アーチェリー協会（連盟）…１部 各加盟高等学校用……１部
各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局……１部
(3) 登録届提出先：〒330 埼玉県大宮市堀ノ内１丁目615 大宮開成高等学校内
「全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局」

指定都道府県番号表

指定都道府県番号	都道府県名	指定都道府県番号	都道府県名	指定都道府県番号	都道府県名
1	北海道	17	長　野	33	岡　山
2	青　森	18	富　山	34	広　島
3	岩　手	19	石　川	35	山　口
4	宮　城	20	福　井	36	香　川
5	秋　田	21	静　岡	37	徳　島
6	山　形	22	愛　知	38	愛　媛
7	福　島	23	三　重	39	高　知
8	茨　城	24	岐　阜	40	福　岡
9	栃　木	25	滋　賀	41	佐　賀
10	群　馬	26	京　都	42	長　崎
11	埼　玉	27	大　阪	43	熊　本
12	千　葉	28	兵　庫	44	大　分
13	東　京	29	奈　良	45	宮　崎
14	神奈川	30	和歌山	46	鹿児島
15	山　梨	31	鳥　取	47	沖　縄
16	新　潟	32	島　根		

★個人登録番号の付記について

1）指定都道府県番号はHの前に　　例：東京都の場合 [１３] Ｈ－

2）指定学校番号はHに続いて　　例：東京都の玉川学園高校の場合　１３Ｈ－[０６]

3）個人登録番号をーの後に男子は1001・女子は5001より各学校で付記

例：東京都の玉川学園高校の場合　１３Ｈ－０６－１００１（男子の場合）
１３Ｈ－０６－５００１（女子の場合）

19　年　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟会員登録届

（№　／　）

所　属	都・道・府・県　ア（高体連専門部／協会（連盟））	加盟団体登録番号	第　H　号
学校名	都・道・府 県・市・私　立	学　校　長　名	印
所在地	〒□□□-□□		
電　話	〔　　〕（　　）	FAX.№	〔　　〕（　　）
顧問名	代表者 印・　　・　　・		

女　子					男　子				
登録番号	氏　名	学年	年齢	生年月日	登録番号	氏　名	学年	年齢	生年月日
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・
H －				・　・	H －				・　・

種別		人数	女子	男子	合計	金額	チェック	県高体連ア専部	都道府県ア協	全高体連ア部	全日本ア連盟
単独校	女子	1年				単独校負担金＝３０００円	受付月日	月　日	月　日	月　日	月　日
	男子	2年				複数校負担金＝５０００円	担当者名				
		3年				500円×　人＝　円	確認認印	印	印	印	印
複数校		合計				合計金額＝　円	備　考				

★(1)　記入は、楷書で黒ボールペンを使用してください。また、数字はアラビア数字で記入してください。

(2)　登録届用紙は、各学校で原本１部（朱印の上）を作成し、４部をコピーして必ず５部全てを送付のこと。

５部の内訳：全日本アーチェリー連盟提出……１部　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部用……１部

各都道府県アーチェリー協会（連盟）…１部　各加盟高等学校用……１部

各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局……１部

(3)　登録届提出先：〒330　埼玉県大宮市堀ノ内１丁目615　大宮開成高等学校内　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局　宛

略称（全国高体連アーチェリー専門部事務局　宛）

学校登録一覧表

（太字都道県名は、高体連加盟）

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
北海道	01H01	道立 札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東１条３丁目	011-851-3111	011-851-3112
18校	01H02	市立 札幌啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
	01H03	道立 小樽潮陵高	047	小樽市潮見台2丁目1番1号	0134-22-0754	0134-22-5954
	01H04	函館ラサール高	041	函館市日吉町1丁目12番1号	0138-52-0365	0138-54-0365
	01H05	道立 室蘭清水丘高	051	室蘭市増市町２丁目	0143-23-1221	0143-23-1221
	01H06	道立 登別南高	059	登別市青葉町42番地1	0143-85-8586	0143-85-8586
	01H07	道立 旭川南高	071-01	旭川市西神楽４線６号	0166-65-8770	0166-65-8772
	01H08	道立 清水高	089-01	上川郡清水町北２条西2丁目2番地	01566-2-2156	01566-2-2156
	01H09	道立 帯広三条高	080-24	帯広市西23条2丁目12番地	0155-37-5501	0155-37-5503
	01H10	道立 帯広工業高	080	帯広市南町南８線西24-1	0155-48-5650	0155-48-2680
	01H11	道立 幕別高	089-06	中川郡幕別町南町81番地	0155-54-2977	0155-54-2159
	01H12	道立 札幌西高	064	札幌市中央区宮ノ森4条8丁目1番地	011-611-4401	011-611-4403
	01H13	道立 札幌啓成高	004	札幌市厚別区厚別東4条8丁目6-1	011-898-2311	011-898-2313
	01H14	道立 札幌開成高	065	札幌市東区北22条東21丁目	011-781-8171	011-781-5629
	01H15	道立 旭川北高	070	旭川市花咲町３丁目	0166-51-4620	0166-51-2818
	01H16	道立 旭川工業高	078	旭川市西神楽３線５号	0166-65-4115	0166-65-4127
	01H17	北海道新十津川農業高	073-11	樺戸郡新十津川町字中央13番地	01257-6-2621	
	01H18	北海高	062	札幌市豊平区旭町４丁目1-41	011-841-1161	
	01H19					
	01H20					
	01H21					
	01H22					
青森県	02H01	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
13校	02H02	県立 藤崎園芸高	038-38	南津軽郡藤崎町大字藤崎字下袋7の10	0172-75-3302	0172-75-6470
	02H03	八戸工業大学第二高	031	八戸市大字妙字中居林	0178-25-4311	0178-25-0568
	02H04	県立 むつ工業高	039-51	むつ市文京町22の7	0175-24-2164	0175-29-2893
	02H05	八戸工業大学第一高	031	八戸市白銀町右岩渕通7の10	0178-33-5121	0178-34-3942
	02H06	県立 名久井農業高	039-05	三戸郡名川町下名久井字下諏訪平1番地	0178-76-2215	0178-76-2260
	02H07	県立 青森西高	038	青森市新城字平岡226の20	0177-88-0372	0177-88-8038
	02H08	県立 青森東高	039-35	青森市大字原別字遠山13番地	0177-36-2444	0177-36-5866
	02H09	青森山田高	030	青森市浜田字板橋23	0177-39-2001	0177-39-1597
	02H10	県立 青森中央高	030	青森市大字浦町字奥野428番地	0177-39-5135	
	02H11	県立 五所川原農林高	037	五所川原市大字一野坪字朝日田2-37	0173-37-2121	
	02H12	県立 八戸南高	031	八戸市大字鮫町小舟渡平2-291	0178-34-6001	
	02H13	県立 五戸高	039-15	三戸郡五戸町字根岸6番地	0178-62-2828	0178-62-4435
	02H14					
	02H15					
岩手県	03H01	県立 盛岡工業高	020	紫波郡都南村大字羽場第18地割松崎	0196-38-3141	0196-38-8134
３校	03H02	盛岡白百合学園高	020	盛岡市山岸４丁目29番16号	0196-61-6330	
	03H03	県立 住田高	029-23	気仙郡住田町世田米字川口12の1	0192-46-3141	
	03H04					

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	03H05					
宮城県	04H01	市立仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	
2校	04H02	東陵高	988	気仙沼市字大峠山1番1号	0226-23-3100	0226-23-3107
	04H03					
	04H04					
秋田県	05H01	県立大館東高	017	大館市釈迦内字獅子ケ森１番地	0186-48-6607	
1校	05H02					
山形県	06H01					
6校	06H02	天真学園高	998	酒田市浜田1丁目3-47	0234-22-4733	
	06H03	県立鶴岡南高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
	06H04	県立鶴岡北高	997	鶴岡市若葉町16-５	0235-22-2262	0235-24-6101
	06H05	県立鶴岡家政高	997	鶴岡市新形町16-20	0235-22-1200	0235-22-1200
	06H06	県立鶴岡工業高	997	鶴岡市家中新町８－１	0235-22-5505	0235-25-1877
	06H07	県立山添高	997-03	東田川郡櫛引町大字上山添字文栄38番地	0235-57-2100	0235-57-2101
	06H08					
	06H09					
福島県	07H01	県立田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-3385
2校	07H02	県立福島高	960	福島市森合町５番72号	0245-35-2391	
	07H03					
	07H04					
茨木県	08H01					
	08H02					
栃木県	09H01	県立馬頭高	329-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
1校	09H02					
	09H03					
群馬県	10H01	県立沼田女子高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	
8校	11H02	県立藤岡北高	375	藤岡市篠塚90	0274-22-2308	
	10H03	県立沼田高	378	沼田市西原新町1510番地	0278-23-1313	
	10H04	県立太田高	373	太田市西本町12の1	0276-31-7181	
	10H05	県立安中実業高	379-01	安中市安中1-2-8	0273-81-0227	0273-82-7207
	10H06	県立館林女子高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-0186	
	10H07	県立桐生西高	376	桐生市相生町3丁目551-1	0277-52-2455	
	10H08	高崎商科短期大学附属高	370	高崎市大橋町237番地の1	0273-22-2827	0273-22-2827
	10H09					
	10H10					
埼玉県	11H01	大宮開成高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
9校	11H02	県立豊岡高	358	入間市豊岡1丁目15番1号	0429-62-5216	0429-65-6635
	11H03	県立行田高	361	行田市大字長野1320番地	0485-56-6291	0485-56-1215
	11H04	県立所沢中央高	359	所沢市並木8丁目2番	0429-95-6088	0429-94-6557
	11H05	春日部共栄高	344	春日部市上大増新田213	048-737-7611	048-737-8093
	11H06	花咲徳栄高	347	加須市花崎江橋519	0480-65-7181	0480-65-4893

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	11H07	県立上尾橘高	362	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-726-5397
	11H08	県立新座高	352	新座市池田1-1-2	0484-79-5110	
	11H09	県立日高高	350-12	入間郡日高町旭ヶ丘806	0429-89-7920	0429-85-441 2
	11H10					
千葉県	12H01	県立京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	
13校	12H02	千葉英和高	276	八千代市村上709-1	0474-84-5141	
	12H03	県立津田沼高	275	習志野市秋津5-9-1	0474-51-1177	
	12H04	県立磯辺高	260	千葉市磯辺2丁目7番1号	0472-77-2211	
	12H05	県立松戸矢切高	271	松戸市中矢切54番地	0473-68-4741	
	12H06	県立姉崎高	299-01	市原市姉崎2632番地	0436-62-0601	
	12H07	県立流山中央高	270-01	流山市大畔275-5	0471-54-3551	
	12H08	県立生浜高	260	千葉市塩田町372	0472-66-4591	0472-68-2680
	12H09	県立船橋高	273	船橋市東船橋6丁目1番1号	0474-22-2188	
	12H10	八街学園高	289-11	印旛郡八街町八街ほ625	0434-43-3221	0434-43-3443
	12H11	拓殖大学紅陵高	292	木更津市桜井1403番地	0438-37-2511	
	12H12	県立泉高	280-01	千葉市高根町875-1	0472-28-2551	
	12H13	志学館高	292	木更津市真舟3丁目29番1号	0438-37-3131	
	12H14					
東京都	13H01	東京学園高	153	目黒区下目黒6-12-25	03-3711-6641	
29校	13H02	都立四谷商業高	165	中野区上鷺宮5-11-1	03-3990-4226	03-3926-7523
	13H03	明治大学付属中野高	164	中野区東中野3丁目3番4号	03-3362-8704	03-3368-3113
	13H04	駒場東邦高	154	世田谷区池尻4-5-1	03-3466-8221	
	13H05	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2138
	13H06	玉川学園高	194	町田市玉川学園6丁目1番1号	0427-28-3503	0427-28-3588
	13H07	都立山崎高	194-01	町田市山崎町字９号1453-1	0427-92-2891	0427-94-0440
	13H08	学習院高	171	豊島区目白1丁目5番1号	03-3986-0221	03-5992-1016
	13H09	麻布高	106	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	
	13H10	獨協高	112	文京区関口3-8-1	03-3943-3651	03-3943-9119
	13H11	慶応義塾女子高	108	港区三田2丁目17番23号	03-3451-3618	03-3451-3642
	13H12	武蔵野高	114	北区西ケ原4-56-20	03-3910-0151	
	13H13	東海大学付属高輪台高	108	港区高輪2-2-16	03-3441-8234	03-3441-8238
	13H14	早稲田大学高	177	練馬区上石神井3丁目31番1号	03-5991-4151	03-3928-4110
	13H15	城北高	174	豊島区目白5-23-5	03-3956-3157	03-3956-9779
	13H16	足立高	120	足立区千住旭町40-24	03-3888-5331	03-3888-6720
	13H17	淑徳高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
	13H18	都立大山高	173	板橋区小茂根5-18-1	03-3958-2121	03-3959-8591
	13H19	昭和第一学園高	190	立川市栄町2-45-8	0425-36-1611	0425-37-6880
	13H20	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3405	0422-33-3376
	13H21	都立第四商業高	176	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040
	13H22	日体桜華女子高	189	東村山市富士見町2-5-1	0423-91-4133	0423-92-6424
	13H23	明治学院東村山高	189	東村山市富士見町1丁目12番3号	0423-91-2142	0423-91-5926

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	13H24	都立 館高	193	八王子市館町1097番136	0426-63-3315	0426-62-9831
	13H25	大東文化学園高				
	13H26	藤村女子高				
	13H27	都立 野津田高	194-01	町田市野津田町2000番	0427-34-2311	0427-34-9388
	13H28	都立 小平西高	187	小平市小川町1-502-95	0423-45-1411	
	13H29	文京女子高	113	文京区本駒込6-18-3	03-3964-5301	03-3964-7294
	13H30					
	13H31					
神奈川県	14H01	横浜高	236	横浜市金沢区能見台通46-1	045-781-3396	045-785-1541
18校	14H02	相模女子大学高	228	相模原市文京2-1-1	0427-42-1442	
	14H03	県立 横浜緑ヶ丘高	231	横浜市中区本牧緑ヶ丘37番地	045-621-8641	
	14H04	浅野高	221	横浜市神奈川区子安台1-3-1	045-421-3281	045-421-4080
	14H05	三浦高	238	横須賀市衣笠栄町3丁目80番地	0468-52-0284	
	14H06	市立 横須賀高	238	横須賀市森崎5丁目1番1号	0468-36-0413	0468-36-1361
	14H07	県立 東金沢高	236	横浜市金沢区富岡東2丁目6番1号	045-774-1188	045-776-2357
	14H08	県立 小田原城内高	250	小田原市南町1-6-34	0465-23-3251	0465-23-6142
	14H09	県立 湘南高通信制少年工科学校	238-03	横須賀市幸浜2-1	0468-56-1291	
	14H10	平和学園高	253	茅ヶ崎市富士見町5番2号	0467-87-0132	0467-87-2088
	14H11	東海大学附属相模高	228	相模原市相南3-33-1	0427-42-1251	0427-42-1159
	14H12	慶応義塾高	223	横浜市港北区日吉4丁目1番2号	044-563-1111	
	14H13	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
	14H14	県立 永谷高	233	横浜市港南区下永谷町1-28-1	045-824-2126	045-825-3605
	14H15	市立 南高	233	横浜市港南区東永谷町2丁目1番1号	045-822-1910	
	14H16	県立 上矢部高	245	横浜市戸塚区上矢部町3230	045-861-3500	045-862-6347
	14H17	鎌倉女学院高	248	鎌倉市由比ヶ浜2-10-4	0467-25-2100	0467-25-1358
	14H18	県立 三崎水産高	240	横須賀市長坂1-2-1	0468-56-3128	0468-57-6457
	14H19					
山梨県	15H01	県立 甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
5校	15H02	山梨英和高	400	甲府市愛宮町112	0552-52-6184	0522-51-7468
	15H03	甲府湯田高	400	甲府市青沼3丁目10-1	0552-33-0127	0552-33-0129
	15H04	県立 農林高	400-01	中巨摩郡竜王町西八幡4533	0552-76-2611	
	15H05	県立 機山工業高	400	甲府市下飯田1丁目9番1号	0552-28-7281	
	15H06					
	15H07					
新潟県	16H01	県立 長岡工業高	940	長岡市幸町2丁目7番70号	0258-36-4510	
4校	16H02	敬和学園高	950-31	新潟市太夫浜325	025-259-2391	025-259-7281
	16H03	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386
	16H04	県立 新潟中央高	951	新潟市学校町通り2番地5317-1	025-229-2191	
	16H05					
長野県	17H01	県立 篠ノ井校	388	長野市篠ノ井布施高田1161番地2	0262-92-0066	
1校	17H02					

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	17H03					
富山県	18H01	高岡竜谷高	933	高岡市古定塚4-1	0766-22-5141	0766-25-8149
3校	18H02	県立魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
	18H02	新川高	937	魚津市吉島1350	0765-24-2015	0765-24-2015
石川県	19H01	県立柳田農業高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ倍3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
3校	19H02	県立金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
	19H03	県立工業高	920	金沢市本多町2丁目3番6号	0762-61-7156	0762-65-5346
	19H04					
	19H05					
福井県	20H01	県立丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	
4校	20H02	県立金津高	919-06	坂井郡金津町南金津33-1	0776-73-1255	
	20H03	敦賀気比高	914	敦賀市沓見164-1	0770-24-2150	0770-24-2620
	20H04	県立高志高	910	福井市御幸２丁目25-8	0776-24-5175	0776-24-5177
	20H05					
	20H06					
静岡県	21H01	県立修善寺工業高	410-24	田方郡修善寺町牧之郷892番地	0558-72-3322	0558-72-1955
14校	21H02	富士見高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
	21H03	県立静岡商業高	420	静岡市田町７丁目90番地	054-255-6241	054-255-9241
	21H04	県立袋井高	437	袋井市愛野2446-1	0538-42-0191	0538-43-0710
	21H05	県立浜松工業高	433	浜松市初生町1150	053-436-1101	053-437-9988
	21H06	県立浜松商業高	432	浜松市文丘町4番11号	053-471-3351	053-475-2109
	21H07	信愛学園高	430	浜松市下池川町34番3号	053-471-5336	053-475-2395
	21H08	興誠高	430	浜松市高林1丁目17番2号	053-471-4136	053-471-4137
	21H09	県立浜松北高	432	浜松市広沢1丁目30番1号	053-454-5548	053-456-3316
	21H10	県立浜松湖東高	431-11	浜松市大人見町3600	053-485-0215	053-485-3947
	21H11	県立三ヶ日高	431-14	引佐郡三ケ日町釣78-1	0535-25-0103	0535-25-0426
	21H12	県立天竜林業高	431-33	天竜市二俣町二俣601番地	0539-25-3139	0539-25-7422
	22H13	静岡北高	420	静岡市瀬名3240	0542-61-5801	0542-62-5573
	22H14	県立静岡東高	420	静岡市川合757番地	0542-61-6636	0542-63-5970
	22H15					
	22H16					
愛知県	22H01	愛知高	464	名古屋市千種区光ケ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254
17校	22H02	愛知工業大学名電高	464	名古屋市千種区若水3丁目2番12号	052-721-0311	052-722-8302
	22H03	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉２丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-3974
	22H04	愛知女子高	451	名古屋市西区新道1丁目23番15号	052-571-8422	052-561-0713
	22H05	東海女子高	468	名古屋市天白区中平２丁目901番地	052-801-6222	052-804-0647
	22H06	東海高	461	名古屋市東区筒井1-2-35	052-936-5112	052-936-9744
	22H07	東邦高	465	名古屋市名東区平和が丘3丁目11番地	052-782-1171	052-782-7151
	22H08	金城学院高	461	名古屋市東区白壁4-64	052-931-6236	
	22H09	県立安城高	446	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231	
	22H10	三河高	444	岡崎市岡町字原山12-10	0564-48-5211	0564-48-5300

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	22H11	桜丘高	440	豊橋市南牛川2丁目1番の11	0532-61-6421	0532-63-9278
	22H12	県立衣台高	471	豊田市太平町平山５番地	0565-33-1080	
	22H13	県立西尾東高	445	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911	
	22H14	県立岡崎東高	444-35	岡崎市竜泉寺町字後山27番地	0564-52-8911	
	22H15	名古屋工業高	466	名古屋市昭和区円上町22-38	052-871-2681	052-881-0761
	22H16	中京女子大学附属高	461	名古屋市東区大幸南２丁目1番10号	052-723-0851	052-723-1744
	22H17	市立向陽高	466	名古屋市昭和区広池町47番地	052-841-7138	052-853-2453
	22H18					
三重県	23H01	三重高	515	松阪市久保町梅村3番地	0598-29-2959	0598-29-6807
３校	23H02	暁高	512	四日市市萱生町大郷1-4	0593-37-2345	
	23H03	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村１番地	0598-29-4151	0598-29-6944
	23H04					
	23H05					
岐阜県	24H01	聖マリア女学院高	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
２校	24H02	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
	24H03					
滋賀県	25H01	県立大津商業高	520	大津市御陵町2-1	0775-24-4284	0775-26-1802
11校	25H02	県立大津高	520	大津市馬場1丁目1番1号	0775-23-0386	0775-26-1772
	25H03	県立栗東高	520-30	栗太郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
	25H04	市立守山女子高	524	守山市勝部町962番地	0775-82-2019	0775-83-2829
	25H05	県立甲南高	520-33	甲賀郡甲南町寺庄427	0748-86-4145	0748-86-4983
	25H06	県立八幡商業高	523	近江八幡市宇津呂町10	0748-32-2072	0748-32-4052
	25H07	県立愛知高	529-13	愛知郡愛知川町102	0749-42-2150	0749-42-6172
	25H08	県立伊吹高	521-02	坂田郡山東町朝日302番地	0749-55-2350	0749-55-2778
	25H09	県立長浜商工高	526	長浜市地福寺町3-72	0749-62-3370	0749-65-1344
	25H10	県立虎姫高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
	25H11	県立北大津高	520-02	大津市仰木の里１丁目23-1	0755-73-5881	0775-73-7076
	25H12					
	25H13					
京都府	26H01	同志社高	606	京都市左京区岩倉大鷺町89	075-781-7121	075-781-7124
７校	26H02	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4308
	26H03	福知山商業高	620	福知山市字堀水内	0773-22-6224	
	26H04	市立洛陽工業高	601	京都市南区唐橋大宮尻町22	075-691-3161	
	26H05	市立紫野高	603	京都市北区紫野大徳寺町22	075-491-0221	
	26H06	府立木津高	619-02	相楽郡木津町字木津内田山34	07747-2-0031	07747-2-0031
	26H07	府立宇治高	611	宇治市五ケ庄雲峰4-1	0774-33-1691	0749-33-1696
	26H08					
	26H09					
大阪府	27H01	府立和泉工業高	594	和泉市富秋町33	0725-41-1250	0725-45-8985
15校	27H02	大阪高	533	大阪市東淀川区相川2-18-51	06-340-3031	06-349-3719
	27H03	大阪工業大学高	535	大阪市旭区大宮5丁目16番1号	06-952-3131	06-953-9497

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	27H04	大阪女子商業高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
	27H05	関西大倉高	567	茨木市室山2丁目14番1号	0726-43-6321	0726-43-8375
	27H06	市立岸和田産業高	596	岸和田市別所町541	0724-22-4861	0724-22-4862
	27H07	府立久米田高	596	岸和田市額原町	0724-43-6651	0724-43-0307
	27H08	此花学院高	544	大阪市生野区勝山南2丁目6番38号	06-716-0003	
	27H09	帝塚山学院高	558	大阪市住吉区帝塚山中3丁目10番51号	06-672-1151	06-678-8797
	27H10	浪速工業高	566	摂津市三島3丁目5番36号	06-381-0220	06-383-4822
	27H11	府立西野田工業高	553	大阪市福島区大開2丁目17番62号	06-461-0023	06-461-3483
	27H12	初芝高	591	堺市日置荘西町51	0722-85-0128	0722-86-8405
	27H13	桃山学院高	545	大阪市阿倍野区昭和町3丁目1番64号	06-621-1181	06-621-1111
	27H14	府立山本高	581	八尾市山本町北1-1-44	0729-99-0552	0729-99-4374
	27H15	府立工業高等専門学校	572	寝屋川市幸町26番12号	0720-21-6401	0720-21-0134
	27H16					
	27H17					
兵庫県	28H01	滝川高	654	神戸市須磨区宝田町2丁目1-1	078-732-1625	078-732-7391
16校	28H02	須磨ノ浦女子高	654	神戸市須磨区行幸町2丁目7-3	078-731-6637	078-731-6149
	28H03	甲南高	659	芦屋市山手町31-3	0797-31-0551	0797-31-7458
	28H04	市立琴丘高	670	姫路市今宿668	0792-92-4925	
	28H05	県立星陵高	655	神戸市垂水区星陵台4丁目3-2	078-707-6565	078-707-6589
	28H06	夙川学院高	662	西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596
	28H07	松蔭高	657	神戸市灘区青谷3丁目4番47号	078-861-1105	078-861-1887
	28H08	甲南女子高	658	神戸市東灘区森北5丁目6-1	078-411-2531	078-411-2535
	28H09	神戸山手女子高	650	神戸市中央区諏訪山町6番1号	078-341-6050	078-341-1882
	28H10	県立舞子高	655	神戸市垂水区学が丘3丁目2番	078-783-5151	078-783-5152
	28H11	県立姫路東高	670	姫路市本町68	0792-85-1166	0792-85-1167
	28H12	県立夢野台高	653	神戸市長田区房王寺町2丁目1	078-691-1546	078-691-1548
	28H13	須磨女子高	654	神戸市須磨区板宿町3-15-14	078-732-1968	
	28H14	滝川第二高	651-22	神戸市西区平野町下村字平瀬436-1	078-961-2381	078-961-4591
	28H15	県立西宮甲山高	662	西宮鷲林寺字剣谷10番地	0798-74-2460	0798-74-2461
	28H16	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-611-1143	078-611-7070
	28H17					
	28H18					
奈良県	29H01	県立奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
3校	29H02	天理高	632	天理市杣之内町1260	07436-3-1511	07436-3-1368
	29H03	奈良学園高	639	大和郡山市山田町430	07435-4-0351	07435-4-0335
	29H04					
和歌山県	30H01	県立貴志川高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
1校	30H02					
	30H03					
鳥取県	31H01	米子北高	683	米子市米原523番地	0859-22-9371	0859-32-6838
5校	31H02	県立倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	31H03	県立 倉吉東高	682	倉吉市下田中町801番地	0858-22-5205	0858-22-5206
	31H04	県立 鳥取商業高	680	鳥取市湖山町北2丁目401番地	0857-28-0156	0857-28-0157
	31H05	県立 鳥取東高	680	鳥取市立川町5丁目210	0857-22-8495	0857-22-8497
	31H06					
	31H07					
島根県	32H01	県立 松江東高	690	松江市西川津町字宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
1校	32H02					
	32H03					
岡山県	33H01	岡山理大学附属高	700	岡山市理大町1-1	0862-52-3161	0862-55-6312
3校	33H02	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
	33H03	高梁日新高	716	高梁市内山下150番地	0866-22-3466	
	33H04					
	33H05					
広島県	34H01	尾道高	722	尾道市栗原町1268-1	0848-23-2312	0848-23-3664
21校	34H02	国立 広島大学附属福山高	721	福山市春日町吉田	0849-41-8350	0849-41-8356
	34H03	市立 呉豊栄高	737	呉市阿賀中央5丁目13番56号	0823-72-5577	
	34H04					
	34H05	県立 呉宮原高	737	呉市宮原3丁目1番1号	0823-21-9306	0823-21-9308
	34H06	県立 海田高	736	安芸郡海田町つくも町1番60号	082-822-3030	
	34H07	県立 加計高	731-35	山県郡加計町加計3780-1	08262-2-0488	
	34H08	広島山陽学園山陽高	733	広島市西区観音新町4丁目12-5	082-232-9156	082-232-2497
	34H09	修道高	730	広島市中区南千田西町8-1	082-241-8291	082-249-0870
	34H10	広島女子商業高	732	広島市南区南段原町11-5	082-261-8161	
	34H11	県立 広島工業高	734	広島市南区出汐2丁目4-75	082-254-1421	
	34H12	国立 広島大学付属高	734	広島市南区翠1丁目1-1	082-251-0191	082-252-0725
	34H13	県立 広島皆実高	734	広島市南区出汐2丁目4-76	082-251-6441	
	34H14	県立 可部高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-815-4781
	34H15	山陽女子高	738	広島市廿日市市佐方本町1-1	0829-32-2221	0829-32-7681
	34H16	県立 因島北高	722-21	因島市重井町長浜5574	08452-4-1281	
	34H17	英数学館高	721	福山市引野町980-1	0849-41-4115	0849-41-4118
	34H18	福山暁の女子高	721	福山市西深津町３丁目４番１号	0849-22-1682	0849-25-1533
	34H19	近畿大学附属福山高	720	福山市佐波町389	0849-51-2695	0849-51-3581
	34H20	広島第一女子商業高	732	広島市東区山根町天神谷108-8	08 2 -262-0128	082-263-9228
	34H21	県立 廿日市西高	738	廿日市市阿品台西6-1	0829-39-1571	
	34H22					
	34H23					
山口県	35H01	県立 久賀高	742-23	大島郡久賀町第4851番地の2	08207-2-0024	
8校	35H02	県立 下関西高	751	下関市後田町4丁目10番1号	0832-22-0892	
	35H03	聖光高	743	光市光井9丁目22-1	0833-72-1187	0833-72-1189
	35H04	県立 田布施工業高	742-15	熊毛郡田布施町麻郷奥	0820-48-2306	
	35H05	県立 田布施農業高	742-15	熊毛郡田布施町大字波野	0820-52-2157	

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	ＦＡＸ番号
	35H06	県立 西京高	753	山口市大字黒川2580番地の1	0839-23-8508	0839-32-0721
	35H07	県立 華陵高	744	下松市朱武上屋称下217-2	0833-44-1285	
	35H08	県立 下松高	744	下松市大字河内114	0833-41-0157	0833-41-3147
	35H09					
	35H10					
香川県	36H01	県立 高松西高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
3校	36H02	県立 観音寺第一高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	
	36H03	尽誠学園高	765	善通寺市生野町855番地	0877-62-1515	0877-63-3860
	36H04					
徳島県	37H01	県立 徳島工業高	770	徳島市北矢三町2丁目1番1号	0886-31-4185	0886-31-1110
3校	37H02	県立 鳴門高	772	鳴門市撫養町斉田字岩崎135-1	0886-85-3217	
	37H03	県立 阿波高	771-15	板野郡吉野町柿原字ヒロナカ180	0886-96-3131	0886-96-5130
	37H04					
愛媛県	38H01					
	38H02					
高知県	39H01	県立 高知小津高	780	高知市城北町1-14	0888-22-5270	
1校	39H02					
福岡県	40H01	県立 柏陵高	815	福岡市南区大字柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
4校	40H02	県立 折尾高	807	北九州市西区大膳2丁目23番1号	093-691-3561	093-691-9529
	40H03	県立 門司北高	800-01	北九州市門司区猿喰1462-2	093-481-4673	093-481-5768
	40H04	小倉女子商業高	803	北九州市小倉北区皿山町15番1	093-561-1334	093-561-4844
	40H05					
	40H06					
	40H07					
佐賀県	41H01	県立 佐賀農芸高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	
1校	41H02					
	41H03					
長崎県	42H01	県立 大村工業高	856	大村市森園町1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
3校	42H02	県立 諫早東高	854-02	北高来郡森山町杉谷名317	0957-36-1010	
	42H03	県立 長崎南商業高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	
	42H05					
	42H04					
熊本県	43H01	県立 第二高	862	熊本市東町3-8	096-368-4125	
3校	43H02	有明高	864	荒尾市増永2200番地	0968-63-0958	0968-64-1366
	43H03	東海大学第二高	862	熊本市大江町渡鹿223	096-382-1146	096-385-2161
	43H04					
	43H05					
大分県	44H01	別府女短大付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-66-0224	0977-67-8133
11校	44H02	明星高	874	別府市野口原3088番地	0977-21-2090	0977-24-3142
	44H03	大分櫻丘高				
	44H04	県立 鶴見丘高	874	別府市鶴見字横打4433-2	0977-21-0118	

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	備考
	44H05	大分電波高	870	大分市新貝11-40	0975-58-3734	
	44H06	県立別府羽室台高				
	44H07	県立佐伯豊南高				
	44H08	大分東明高	870	大分市千代町2丁目4-4	0975-35-0201	0975-35-0966
	44H09	県立大分豊府高	870	大分市大字羽屋600番1	0975-46-2222	
	44H10	大分高	870-01	大分市横尾字大丸尾	0975-51-1101	
	44H11	県立大分上野台高	870	大分市上野丘２丁目10番１号	0975-43-6249	
	44H12					
	44H13					
宮崎県	45H01	県立都城泉ヶ丘高				
２校	45H02	県立都城西高				
	45H03					
	45H04					
鹿児島県	46H01	鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	
２校	46H02	県立鹿児島工業高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	0922-22-9205	0992-22-9206
	47H03					
	47H04					
沖縄県	47H01	県立豊見城南高	901-02	豊見城村字翁長520	0988-50-1951	
５校	47H02	県立宜野湾高	901-22	宜野湾市字真志喜2丁目25番1号	09889-7-1020	
	47H03	県立中部商業高	901-22	宜野湾市字我如古171番地	098-898-4888	098-898-4808
	47H04	県立前原高	904-22	具志川市字田湯1827番地	098-973-3249	
	47H05	県立大平高	901-21	浦添市字大平488番地	098-879-3062	

○　都道府県数　　45県（内30都道府県 高体連に加盟 平成４年２月現在）
○　学校数　　307校
○　新規加盟校の指定学校番号は、各都道府県で指定学校番号を付記し本専門部へ通知すること。

1991年 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟 登録状況一覧表

平成３年12月13日現在

番号	都道府県名	単独校		複数校	女子			女子合計	男子			男子合計	合計			総合計
		女子	男子		1年	2年	3年		1年	2年	3年		1年	2年	3年	
1	○北海道		2	14	48	46	15	109	60	72	51	183	108	118	66	292
2	○青森	3	3	5	15	25	25	65	11	29	31	71	26	54	56	136
3	○岩手	2		1	23	15	10	48	9	5	5	19	32	20	15	67
4	宮城	1		1	0	4	2	6	0	5	3	8	0	9	5	14
5	秋田			1	3	4	0	7	0	3	0	3	3	7	0	10
6	○山形	2	2	2	33	9	13	55	14	11	12	37	47	20	25	92
7	○福島		1	1	8	3	4	15	17	9	1	27	25	12	5	42
8	茨城				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	○栃木			1	6	2	0	8	7	7	2	16	13	9	2	24
10	○群馬	4	2	1	21	23	23	67	16	28	15	59	37	51	38	126
11	○埼玉	2	1	5	35	44	28	107	45	42	25	112	80	86	53	219
12	○千葉		2	11	28	40	25	93	53	58	42	153	81	98	67	246
13	○東京	6	11	8	70	69	44	183	124	108	85	317	194	177	129	500
14	○神奈川	4	4	8	67	41	36	144	89	79	77	245	156	120	113	389
15	○山梨	2	1	1	25	5	1	31	3	3	4	10	28	8	5	41
16	新潟	0	2	1	0	6	3	9	0	10	5	15	0	16	8	24
17	長野			1	0	3	1	4	0	1	3	4	0	4	4	8
18	○富山		1	2	0	2	5	7	40	4	3	47	40	6	8	54
19	○石川		1	2	0	5	7	12	0	9	2	11	0	14	9	23
20	○福井	1		3	10	11	12	33	4	10	10	24	14	21	22	57
21	○静岡	2	5	6	28	39	22	89	59	88	64	211	87	127	86	300
22	○愛知	5	4	4	67	36	15	118	81	71	42	194	148	107	57	312
23	三重	1	1		6	4	5	15	0	2	4	6	6	6	9	21
24	岐阜	1	1		8	5	7	20	0	5	0	5	8	10	7	25
25	○滋賀	2		9	37	17	37	91	58	22	39	119	95	39	76	210
26	○京都	1	2	4	50	21	27	98	28	48	38	114	78	69	65	212
27	○大阪	2	7	6	44	34	41	119	79	96	57	232	123	130	98	351
28	○兵庫	7	2	7	60	53	43	156	40	28	35	103	100	81	78	259
29	○奈良		2	1	8	3	0	11	8	9	13	30	16	12	13	41
30	○和歌山			1	0	3	3	6	0	5	0	5	0	8	3	11
31	○鳥取			5	30	19	14	63	34	12	13	59	64	31	27	122
32	島根			1	0	8	0	8	0	2	1	3	0	10	1	11
33	岡山	1	1		10	4	5	19	3	9	4	16	13	13	9	35
34	○広島	4	6	9	65	53	21	139	45	52	32	129	110	105	53	268
35	○山口	1	2	5	10	21	20	51	21	32	10	63	31	53	30	114
36	○香川		1	2	13	6	6	25	24	12	10	46	37	18	16	71
37	徳島		1	2	13	8	3	24	21	15	2	38	34	23	5	62
38	愛媛				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	高知				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	○福岡	1		3	31	20	13	64	17	10	12	39	48	30	25	103
41	佐賀			1	3	2	1	6	4	0	4	8	7	2	5	14
42	長崎	1		2	18	6	4	28	15	17	5	37	33	23	9	65
43	熊本			3	5	8	4	17	18	11	21	50	23	19	25	67
44	○大分	2		1	12	8	12	32	4	5	2	11	16	13	14	43
45	宮崎				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
46	鹿児島			1	1	0	0	1	0	8	6	14	1	8	6	15
47	○沖縄			5	39	7	11	57	11	12	12	35	50	19	23	92
合計		58	68	147	950	742	568	2260	1062	1064	802	2928	2012	1806	1370	5188

○高体連加盟 30都道府県　307校＋α

第１回ジュニア世界選手権大会に参加して

高校生アーチャーに望むこと

日本チーム監督
關　　政　敏

〈ジュニア世界大会とは？〉

最初に、この大会について簡単に説明をしておきましょう。ＦＩＴＡの規約によれば、この大会は西暦偶数年に開催されることになっています。つまり、奇数年開催の世界大会とは、交互に一年置きに開かれるわけです。にもかかわらず、昨1991年に第１回大会が行われました。第２回は来年（93年）フランスで開かれる模様です。いずれは、規約との食い違いが調整されると思いますが、しばらくはこの状態が続きそうです。

出場できる選手は、17歳以下でなければなりません。大会当日までに18歳の誕生日が来てしまうと参加できません。ですから、何月に行われるかによって、同じ高校３年生でも参加資格のある人とない人が出てきます。現実に昨年は、せっかく全国選抜大会で上位に入りながら、大会当日までに18歳になる選手は選考会に出場できませんでした。本人には気の毒でしたが、残念ながらこればかりはしかたがありません。

競技は、ＦＩＴＡシングルラウンドを２日間で行います。世界選手権やオリンピックでは、シングルラウンドに勝ち抜き戦がプラスされた形のグランドラウンドやオリンピックラウンドが実施されますが、ジュニアに導入される予定はまだなさそうです。シングルラウンドはターゲットアーチェリーの基本種目であり、これから先の長いジュニアにはしっかりと基礎を固めてもらいたいという意図があるように思われます。

〈成績について〉

成績は皆さん知ってのとおり、女子はほんの少しのところで団体のメダルを逃しました。男子は残念ながら上位に食い込むことができませんでした。これをどのように評価するか意見の分かれるところですが、全体的には、実力どおりの結果が現われたと思っています。個別にみれば下回った選手もいましたが、ほとんどの選手が選考会・合宿の平均点とほぼ同じ点数を出しています。私はよく健闘してくれたと思います。しかし、この結果に私達役員は満足しているわけではありませんし、選手はもっと不満だったと思います。たとえ実力が出せたとしても、勝負である以上、やはり記録よりは順位が物を言うからです。次回以降、少しでも上の順位を目指すにはどうしたらよいか、その点について考えてみたいと思います。

ここで、練習点と試合の点数の関係について私の考えを述べておきましょう。ややもすると、人は自分のベスト記録だけを考えて悪い方の記録を忘れがちです。
その結果、ベスト（それも練習のベスト）に遠く及ばなかったと言ってがっかりします。しかし、試合での得点とは、つまるところ、練習の反映であり、平均点にほかなりません。たまたま、練習で高得点を出したからといって、それが自分の実力だと思うのは早計です。その点数が試合でも出る可能性があるという目安に過ぎません。試合でよい点数を出すためには、まず練習の平均点を上げることです。それも高い点数を目指す一方で、低い方の点数の底上げを計る必要があります。調子が悪くても、これ以下は絶対に射たないというしっかりした射ち方を身につけなければなりません。練習での地道なレベルアップこそが

試合での好成績の鍵です。

〈キャリアの差・環境の違い〉

では、なぜ外国選手に差をつけられたのか。第一の理由はアーチェリー経験の差だと思われます。女子優勝のデニス・パーカーは、15歳でソウルオリンピックに出場し、団体で銅メダルを取った世界のトップアーチャーで、名実ともにアメリカのチャンピオンです。彼女は小学生の頃からアーチェリーを始めています。男子優勝アメリカのビクター・ワンダリーも小学校からのキャリアがあり、試合経験も豊富で、世界選手権に出ても上位を狙えるだけの力を持っています。

日本の高校生アーチャーは、ほとんどが高校に入ってから始めているので、2年間のキャリアで彼らに対戦しなければなりません。この時点での数年間の差は、それまでの練習量の差となり、結果として点数の差になってしまいます。相撲にたとえるなら、横綱大関に十両力士が立ち向かうようなものであり、勝負は戦う前からほとんど決っています。もちろん、キャリヤはただ長ければよいというものではありませんが、強くなるには一定の時間が必要です。その意味では、わが日本勢の不利は否定できませんでした。

第二の理由は、海外試合の環境の違いでしょう。距離的に近いヨーロッパの各国は、交流が容易で、国内試合の延長線上で外国と対戦することができます。今回の開催国ノルウェーの隣国、スウェーデンからは車で選手団が来ていました。ちょうど、皆さんが国体やインターハイに出場するような感覚です。10数時間も飛行機に乗ってやって来るのに比べてずいぶんと楽なものです。さらにお互いの風俗習慣にも大きな違いはありません。将来ヨーロッパ全体が統一されようとしている動きからもわかるように、広い意味では、全体ひとつの国のようなものです。地理的には遠いアメリカやオーストラリアも、ヨーロッパは先祖の国であり、いわば実家に帰るようなものです。そんな中、私達日本人は、日頃とはまったく違う環境の中で試合に臨まなくてはならないのですから、有利な条件とは言えません。

この2点だけは個人的な努力で克服することはできません。しかし、何も打つ手がないのかと言えば、決してそうではありません。

〈練習の中身を濃くする〉

現在の状況の中で彼らとの差をつめるためには、練習の中身を濃くすることです。限られた高校3年間で射てる矢数にはおのずと限界があります。その中で効率よく上達するには、貴重な時間を無駄なく有効に使うことが必要です。

たとえば放課後の数時間の練習を考えてみましょう。クラブ員は集合時刻に遅れずに集まりますか？的の準備や弓の組立ては素早くできていますか？射線に立ってから、アーチェリー以外のことを話したりはしていませんか？矢取りの時、行き帰りや的の前でだべったりしていませんか？もし、そのようなことがあるとしたら、ずいぶんと時間を浪費していることになります。短い練習時間で一本でも多くの矢を射つためには、ロスタイムを縮める必要があります。

1年365日はちょっと考えるととても長く感じます。しかし、そこから試験、病気、天候不良など、いろいろな事情で射てない日を引いてゆくと、正味練習できる日は思ったよりも少なくなってしまいます。もちろん、日常の勉強時間を忘れてはいけないし、高校時代の持ち時間は決して多くはないのです。射つこと以外に大切な時間を無駄づかいしてはなりません。練習中は弓だけに集中し、行動にメリハリをつける。私の言う、中身を濃くす

るとは、そういうことなのです。

誤解のないようつけ加えますが、短い時間に多くの矢数をかけようとして、ただ早く射つだけの練習は禁物です。フォームが固まるまでは、動作を丁寧にしてゆっくり射つべきです。雑に射つのと早く射つのとを混同しないよう注意して下さい。さらに、当たった外れたと一喜一憂するだけでなく、どのように射った時当たったか、なぜ外れたかを考えながら射てば、密度は一段と濃くなることでしょう。

弓を射つ以外にも体力を増強するためのトレーニングは必要です。アーチェリーに限らず、すべてのスポーツの決め手は体力です。どれほど素晴らしい技術でも、強靭な精神力でも、体力が尽きては終わりです。弓を引いていれば筋力補強は充分であると考える人もいますが、それだけでは足りないと思います。やり過ぎならないよう注意しながら、ぜひとも実施してもらいたいものです。

トレーニングというと、ちょっと構えてしまいがちですが、大げさに考えることはありません。ランニングに腕立てや腹筋といった用具を使わない方法は沢山あります。大切なのは、コンスタントにやり続けることです。つらいだけで、面白くもないトレーニングかも知れませんが、少しずつの積み重ねが２年３年後にはきっと効果を発揮します。

すでに先行している外国のジュニア選手に、ジュニアのうちに追いつくことは容易なことではありません。しかし、絶対にあきらめず、一歩でも近づいて欲しいと思います。今は無理でも将来シニア同志の対戦になった時、必ず実を結ぶものと確信しています。

〈食事の工夫〉

この大会に参加する目的は、まず、自己記録の更新でした。そして同時に海外への最初の一歩として、将来世界大会やオリンピックに通用するため、より有意義な海外試合を経験すること、これが第二の目的でした。

人間は習慣の動物です。いつもと違う環境の中、食べ慣れない食事をすればだれしも多少は体調に変化が生じます。日本での食生活をそのまま現地に持ち込めたら、すべての面できっとプラスになることでしょう。しかし、現実にはそれは不可能な話です。それならば逆に、こちらから積極的に現地の環境に飛び込み、なじんでゆくべきです。そのためには固定観念を打破しなければなりません。米食が悪いという意味ではありませんが、たとえば米の御飯を腹一杯食べなければ力が出ない、と思い込んでいたら永久にその状態から抜け出すことはできなくなります。何を食べても満腹になればよい、そのような発想法が環境に適応するための考え方です。若い人ほど環境の変化への順応時間が短くてすみます。早いうちにその対応策が身についていれば、将来の海外試合には絶対に有利です。

チームとして日本食をノルウェーに持参しなかったのは以上の理由からです。開催地の食糧事情が特別に悪いような場合を除き、これからもこの方針を変える予定はありません。自分の判断で、調味料やインスタント食品を持って行くのは自由です。しかし、あくまでも補助的な範囲にとどめるべきです。日本では食べられないものを食べること、同じ料理でも日本の味とはどう違うかを比べること、これも海外試合の楽しみです。環境を敵に回すか、見方に引き入れるか、柔軟な考え方ができる人ほど海外の試合では得をします。

食事に関してつけ加えますと、異なった食生活への準備は日本にいる時から行うべきです。まず、日頃から規則正しい食事を取ること。これが基本です。朝食を抜いたり、ジュースやコーラを昼食代わりにしているようでは、日本にいてさえ体調の維持は困難です。そして、好き嫌いをなくすこと。何でも食べられるよう日頃から努力していれば、外国に行っ

た時、最悪の場合でも、何かは食べることができます。食事は一人だけのものではありませんから、家族みんなの協力も必要です。

そうしろというつもりはありません。たとえばの話ですが、週に一度は米の御飯を食べない日を作るとか、箸を使わずに、ナイフとフォークだけで食べる日を設けてみてはどうでしょうか。アーチェリーの練習をしていても皆それぞれの工夫をしていると思います。食事だって同じことです。自分から積極的に苦手なところを克服してゆかなければ、海外での好成績など期待できないと思います。

〈言葉の問題〉

試合で弓を射つだけならば、英語は必ずしも必要ではありません。英語ができなくて問題になるのは、英語ができないことを心配したり悩んだりすることなのです。英語が話せないのは日本人だけではありません。今回もソ連の選手はあまり話せないようでしたが、よい成績を挙げています。言うまでもなく、英語力とアーチェリーの点数にはまったく関連がありません。だから、話せなければ、かえって余計な雑音が耳に入らず、集中してよい位に図太く開き直ってしまえばよいのです。

ただ、少しでも理解できるよう努力することは、競技する上で、さらには自分の世界を広げるためにも大切なことだと思います。知り合った外国の選手たちは、皆将来のライバルです。しかし、彼らと友人になれたら、今後の試合でも有利になります。これからはたった一人で海外試合に行くような機会が大いにあり得ます。そこに一人でも顔見知りがいれば、それだけで余裕ができます。アーチェリーを抜きにしても、友人が多いことは、大きな楽しみです。せっかくの海外試合を、そのような面で利用しないとしたら、誠にもったいないことです。

そんな彼らと意思を通じさせるには、やはり英語が一番です。学校での勉強を確実にやっていれば、基礎は充分、さらに進歩するのに必要なのは、やる気と度胸だけです。英語もアーチェリーも同じです。ひたすら繰り返し続けるのが上達の唯一最良の手段です。そこに目的があれば、勉強の効率も一段と上ろうというものです。

本当に最後になつてしまいましたが、選手をここまで育てあげて下さった先生方には心からお礼を申し上げます。書き連ねたことは、全ア連の目指す基本的な方向であり、だれがこの立場になっても大筋は変わりません。敢えて私個人の思いを述べるならば、アーチェリーに限らず、スポーツとはそれをやる人の楽しみであることが大前提であり、オリンピックもその例外ではないと考えています。豊富な人材の中から、優秀な選手を発掘すると同時に、どのレベルの生徒でもアーチェリーの面白さが体験できるようなご指導を、と願っております。

追記：この原稿を書き上げた後、ＦＩＴＡから次のような連絡が入りました。

1993年の第２回ジュニア世界大会は、８月27日から29日まで、フランス開催が正式に決定。また、第３回大会は、期日は未定ですが、94年にイタリアでの開催が内定しました。それ以後は規約通り偶数年に行われることになります。２年連続して開かれる最後の機会です。該当する年度の高校生にとっては願ってもないダブルチャンス。

ぜひともこのチャンスを生かされんこと……

第１回ジュニア・アーチェリー

世界選手権大会を振り返って

日本代表チーム男子コーチ
滋賀県立北大津高等学校教諭　立　入　彰　修

《はじめに》

今回私は光栄にも第１回ジュニア・アーチェリー世界選手権大会の日本代表チーム男子コーチとして、初めて渡欧させていただきました。第１回ということで世界のジュニアがどの程度のレベルにあるのか、また、日本代表チームのコーチという重責を担いきれるかという不安と、もしかしたら８位入賞ができるかもしれないという希望とが入り交じる不思議な気持ちでノルウェーへと向かいました。

アーチェリーの本格的指導を始めてわずか５年の私を、このような光栄な役職を持って海外へ派遣くださいました皆様に何かご恩返しができるかと思い、以下に若輩者の私の感想等を報告させていただきます。

《男子選手団構成メンバーと予選記録》

選　手

厚海　善栄　　福島県立田村高校２学年
予選記録　1193点　1070点

上野　貴裕　　滋賀県立北大津高校３学年
予選記録　1211点　1076点

平尾　彰浩　　静岡県立浜松北高校３学年
予選記録　1085点　1115点

松村　庫司　　滋賀県立大津商業高校３学年
予選記録　1105点　1042点



厚海　上野　松村　平尾　立入

《日程及びコンディショニング》

7月21日

・現地時間20：30グラネッドホテル到着

・旅の疲れをいやす為に、明朝の集合時間を知らせるのみのミーティングで21：00消灯とする。

7月22日

・７：00ホテル玄関前に集合し、１時間程度の散歩と体操をおこない朝のコンディションを整える。

・練習会場がまだ設営されてない為９：00より､競技会本部chairmanの所属するクラブフィールドにてランニング、体操、ストレッチ等の準備体操の後練習を始める。

・練習内容は近射６回後各自のペースにより、各距離を射ち感触を確かめる。練習時間は約３時間。

・午後３：00より５：00まで午前と同じ内容で練習する。

・本日の練習は、移動における２日間のブランクもあり、精神的にも早く射ちたいという気持ちがあるのか、最終の合宿時よりもフォームも大きく伸び伸びとシューティングができていた。従ってグルーピングも良かった。また、同じ練習場ではソビエトとオーストラリアの選手も練習しており、新鮮な気持ちで練習できたのであろう。午後からの練習ではオーストラリアの選手と仲良くなり、片言の英語で会話するようになった。

・夜のミーティングにおいても各自が気持ち良くシューティングできたとの反省であった。

7月23日

・朝７：00玄関集合で体操、ランニング、ストレッチ等で体をほぐす。
トレーニングフィールドが開場となったので準備体操後、午前・午後それぞれ２時間30分の練習をする。

・当日より各国選手団も続々と到着し､トレーニングフィールドは各国の選手であふれた。

・日本選手は、「昨日の好調を各国の選手に見せつけてやろう。」という思いからか昨日とはまったくフォームが違い自分を忘れていた。また中には外人特有の明るさをはきちがえて解釈し、ふざけて練習している者もいたので注意する。選手は理解したもののまだ的への意識が強すぎ、午後になっても昨日の好調が取りもどせなかった。

・ミーティングでは以上のことを再度注意する。

7月24日

・昨日同様の起床及び体操等で体をほぐす。

・10：00より２時間30分の練習をする。練習前に昨日の反省を踏まえて試合状況を思い浮かべながら約30本のイメージトレーニングをする。

・昨日のミーティングでの指示を全員がよく理解し､フォームをじっくり考えてシューティングしているようで、グルーピングも良かった。

・午後からは換金と選手の鋭気を養うため、市内観光へでかける。

・ミーティングは公式練習の方法の説明だけで軽く終わる。

7月25日

・朝の起床、体操等は昨日同様。

・10：00より弓具検査及び公式練習。(準備体操は昨日同様)

・公式練習では全く各自のペースにまかせる。

・４：00より開会式。この開会式が国内の全国大会に比べ小規模であったため、全員緊張

感もなくリラックスしているようであった。
・ミーティングは、精一杯頑張るように注意するだけで終わる。
7月26日
・６：30集合し毎日同様の体ほぐし。
・競技会前に近射を射ちたい者と射たない者に分かれ､射ちたいものはトレーニングフィールドで射つ。
・９：30競技開始。
男子側は風が強く吹いた｡矢が軽く低ポンドの日本チームには風の対応に気を使いすぎ、90Mでは彼らの力を発揮できなかった。また、あまりにもの緊張の無さに惰性でシューティングしている者もあり注意する。午後の70Mでは風がさらに強くなったものの、ある程度の緊張感も持て３名が順位を上げた。
・全体のミーティングは少しにし、その後各選手に言葉を変え注意。(明日の短距離において、今日の70Mのような緊張感のある試合運びをするように)
7月27日
・競技開始までは昨日と同じ。
・９：30競技開始。昨日の点数の悪さからくるのか、又、女子の頑張りに焦りを感じるのか､狙いが強くなりすぎる者が多く見られた｡取り掛けに力が入り矢飛びも悪く、グルーピングも悪かった。競技が終わってみれば男子は散々と言える結果であった。コーチとして選手の力を十二分に引き出せなかったことを痛感し反省点を考える。
7月28日
・オスロ市内観光後ヘルシンキへ移動。
7月29日
・夕刻日本へと向かう。
7月30日
・予定通り日本時間午前11：10無事帰国。
・国体、全日での再会を約束し解散。

《試合結果》

男子団体　(参加団体14カ国)

1位　イタリア　3716点
2位　フランス　3680点
3位　イギリス　3662点
13位　日本　3479点

男子個人　(　)の中は距離順位

	９０M	７０M	５０M	３０M	TOTAL
平尾彰浩	261 (28)	289 (38)	294 (46)	327 (50)	1171 (41)
厚海善栄	240 (52)	292 (32)	303 (33)	330 (43)	1165 (46)
上野貴裕	241 (51)	302 (16)	288 (52)	330 (43)	1161 (47)
松村庫司	237 (53)	280 (50)	286 (54)	328 (49)	1131 (54)

参考　　（参加者62名）

1位	Victor WUNDERLE	（ＵＳＡ）1272
2位	Filippo CLINI	（ＩＴＡ）1269
3位	Martinus GROV	（ＮＯＲ）1260

《感想》

今回の第１回ジュニア世界選手権大会における日本男子チームは散々たる結果でした。当初は世界のレベルが全く解らなかったため、今後がある彼らにとって自分の自己ベストが世界の桧舞台で射てるように、また悪くても自分のいま現在の練習点が射てるように、という目標でした。結果は２回の合宿の平均点を１名が30点、２名が10点上回り、残念ながら１名が50点下回りました。試合に参加するにあたっての、最低の目標は１名を除けば達成できたのですが、世界で自己ベストに近い点数を射つまでにはいたりませんでした。

練習点とそう変わらない点数を射ててもこの結果ですから、競技中の風を考えた上で、彼らが自己ベストに近い点数を射てたとしても８位入賞がやっとだったと思います。では何故日本男子チームが上位入賞できなかったのでしょうか。それには４つの原因があると思います。

まず第１に体格とパワーの差が上げられます。風の中の90Mでも他の国の選手の矢は流れません。30インチを越えようかとする矢と、42から45ポンドの弓では到底長距離（とりわけ風の中）では勝負になりません。彼らはこの弓を完全に使いこなしています。そういう意味でまずジュニアのパワーアップが必要だと思います。

第２に外人に対するコンプレックスと日本と外国の差による精神的疲労です。白い肌・金色の髪・すらりと伸びた長い手足。これだけで日本ジュニアチームは圧倒され、彼らが射ったゴールドに入る矢だけを見て「外人は点数を出す。」と思い込んでしまいました。又、食事のマナーや会話等で日本の習慣と違う為にそれに精神を集中してしまい、競技中での集中力に欠けていたと思われます。食事につきましても、今回は現地で出されたものをおいしく食べる、という目標でいきましたが、それを全体に守らせるというのも問題であったように思います。(自分の部屋でこそこそと日本から持ち込んだレトルト食品等を食べている姿を見て、これでよいのかと思いました。) 全く日本食を現地に持ち込まないで現地のものを食べ、我慢させるのがベターなのか、(彼らが今後オリンピックの日本代表として出場した時の練習を兼ねて。) それともある程度日本食とお箸を持ち込み、それを計画的に食べさせるほうがベターなのか、今後の課題のように思います。

第３には射型的には日本ジュニアチームが世界に遅れを取っているとは、今回の大会を見る限り私は思いませんでした。ただ日本のジュニアは、自分が使いこなせていない道具に頼りすぎているようです。どういう意味かと言いますと、引き重量に対するリムの返りが早すぎる弓具を使用しているように思うのです。弓を始めて２年目の彼らはリリースをまだつくっている状態で、リリースが矢の発射の一連の動作になっていません。他国選手のリリースはクリッカーが鳴ってからの条件反射のように、自然に離れているように私には見えました。

最後に一番大切なことですが、日本国内の指導者側の統一見解のないことが挙げられると思います。このことは後で報告させていただきます。

それでは今後いかにしてゆけば日本ジュニアが世界で活躍できるか。私の少々の経験で

厚かましいとは思いますが、以下に列挙させていただきます。

１）予選方法と合宿について

今回の選手団の選抜方法として、３月末に行われた選抜大会の上位８名で予選会が開催されました。この選抜の地方予選が昨年の１１月頃です。このことは諸先生方もご同感のかたが多いと思いますが、弓を始めて１年か２年の高校生では、地方予選で敗れたり、選抜大会で８位以内に入れなかった選手でもその後伸びている者も全国にたくさんおります。高校生というのは一日過ぎればトータルにおいて50点から100点程度の点数の変動はよく見られます。従いまして、弓歴１年から２年の選手を世界に出して活躍させるには、８カ月に及ぶ予選会ではなく、その時点（エントリーの最終段階）で点数がでている選手を代表にするのがベターだと思います。

もしそれが不可能であるとしても、今回の２回の合宿では、技術的にまだ確立されていない、しかも揺れ動き安い年齢の彼らの射型を把握するにはあまりにも短いと思います。したがって今回のような選抜方法であれば最低延べ20日間程度の合宿を実施して、選手と接する機会を増やすと共に、その選手の指導者も合宿に参加して選手について綿密なミーティングを持つ必要があるのではと思われます。

又、今回の２回の合宿はシニアの世界選手権代表チームと共に合宿をさせていただき、その内容もシニアと同じメニューで点数をつける練習が主でした。今思いますとやはり技術的にまだ未熟なジュニアには、点数だけを追いかけるのではなく、もっと選手と話し合い射型等をチェックする合宿が必要であったような気がします。

２）強化対策

外国では12才から13才ですでに弓を始めております。地域スポーツの指導体制が整っていないわが国においては、ジュニアの強化策は中体連・高体連に依頼し、しかもその一貫性が必要だと思います。体格的ハンディと弓に接する年齢の遅い日本が、本気でジュニア・シニアともに今後世界に立ち向かうには、中学校からの指導と、中学・高校・大学・社会人と一貫した指導体制及び、指導教程をつくることが急務だと思われます。

毎年全米選手権への派遣事業が行われています。日本の地域性・強化費の問題等がありますが、アメリカにこだわらず韓国やヨーロッパにも目を向けての派遣事業が必要なのではないでしょうか。ヨーロッパでは日頃から各国の相互交流があるように見受けられます。

３）指導者について

先にも書きましたように、私自身初めて世界大会へ出場させていただきました。その大会では技術指導だけではなく、弓具の正確なチューニング、選手の心理状況を見抜き適切なアドバイスも充分にできず、ただただ自分の無力さを感じ、井の中の蛙であったことを痛感し帰国いたしました。

私が考えますには、技術指導者・弓具のメカニシャン・心理学見地からみた指導者等、それぞれのエキスパートがそれぞれの場面で活躍し、選手の力を100％引き出せる技術スタッフ及び、全国の指導者を対象にしたそれぞれのエキスパートによる研究発表や、研修会が必要なのではないでしょうか。

《最後に》

以上、私が今回の世界ジュニア選手権のコーチとして、予選、合宿、本選を通して参加しての率直な感想であり意見です。

若輩でありかつ非力な私に、このような機会を与えて下さった関係機関の方々に厚く御礼を申し上げると共に、今後今回の経験を生かし、日本ジュニア選手の育成に役立てられるよう努力いたしたいと存じます。

《選手感想》

Ａ選手

良かった点

・合宿をする環境が良かった。
・ナショナルチームとチームを組んでアドバイスを受けながら点取りができたこと。
・ナショナルチームとミーティングができたこと。

悪かった点

・合宿で射つだけでなく体力トレーニング（マシーントレーニング）等も取り入れたほうがよいと思う。
・合宿後のトレーニング法、練習メニュー等も決めた方がよいと思う。
・合宿回数をできるだけ増やしてほしい。

Ｂ選手

試合の前にもっと射ち込みたかったと思う。段々本数を減らしたら試合の当日までに体力が落ちていったような気がした。

自分達に比べて外国選手達は瞬間とフォロースルーがとてもきれいだった。フォロースルーについては特にアメリカの選手達は、後ろへ振っているように見えるけれど、瞬間はまっすぐでそれからゆっくりと流れるようにフォロースルーをしていたと思う。日本人の“振る”とは全然違う。

あとスタンスをとても気にしていると思った。スタンスを決めるまでに３０秒くらいかかって、射つのは、ポン、ポン、ポンと３０秒位で射ってしまうのである。自分のようにムーブアップタイムの内にスタンスを決めて、矢をつがえて、取り掛けまでして2.3秒余っているのとはえらい違いだと思う。

世界大会へいくまでは、自分の目標はせいぜい国内だったと思う。国内で１位を取ることだった。これからはジュニアでなく、大人の国内だけでなく、常に世界を目標にして、高校生活の残りと大学・社会人になってからもアーチェリーをやってゆきたいと思う。

Ｃ選手

試合を終えて反省した事は、試合前の射ち込みが少なかった事。移動時間が長かったので思ったより力が落ちていた。それから試合中引きが長かったのが一番悪かった。向こうでの練習は着いてから試合まで日があったので２日間ぐらい射ち込んで、あとは個人で馴らして行くのがいいと思う。全体としての練習、朝の体操とかは楽しくて良かったと思う。

今回の試合で世界がどのようにアーチェリーに取り組んでいるのかや、射ちかた等いろいろ参考になった。これからすべき事は、無理なくポンドを上げる事と、リリースと押し手と背中をどのように使うか考えて行く事と、いつも満足しないアーチェリーをしてゆく

事だと思っています。

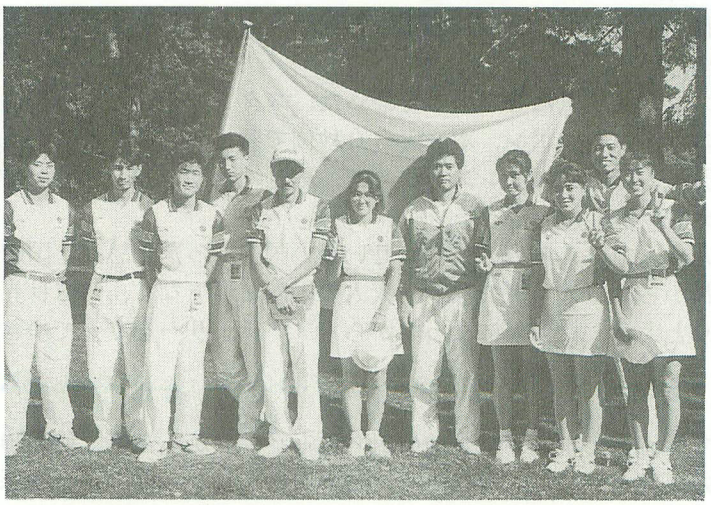
D選手

大会の反省を技術面・精神面に分けて考えてみると、技術的では射ち方が安定していなかったと思います。だからきれいに射てたエンドと射てなかったエンドの点数の差が大きくでてしまいました。日本で射ち込んで行ったのですが、試合までに日があったので失敗しました。最初の練習日に射ち込んでおくぐらいがよかったと思います。そうすれば、もう少し安定感がある射ち方ができたと思います。

精神面ですが、日本での大会に比べて違っていたのは、プレッシャーが無かったことだと思います。“勝たなければ”と思う気持ちがプレッシャーとなって気持ちを引き締めてくれるのですが、プレッシャーが無かったあの試合では90Mの終わり頃には気がゆるんできて、べらべらと話をするようになってしまいました。国内でもこうなってしまうと全く点がでなくなることがあります。この感じは、日本チーム全体にあった気がします。国内の試合の時に感じている気持ちが無かったのではないでしょうか。以上が試合を通しての反省です。

ここで提案ですが、ミーティングのことです。反省のことと関連しますが、ミーティングはもっと選手全員の気持ちを高めるための場としてほしいと思います。監督にはもっとプレッシャーをかけてもらいたいのです。国内のプレッシャーの中で勝ち抜いてきたのだから（国体でもメンバーは全員入賞）そのぐらいの方が気が引き締まってくるのではないでしょうか。

僕にとってはとてもいい経験になりました。この経験を国体でも生かすことができました。今後も生かしていくことがスタッフの皆さんに対しての恩返しになると思って頑張りたいと思います。



第１回ジュニア・アーチェリー世界選手権 大会参加レポート

日本代表チーム女子コーチ
兵庫県甲南女子高等学校教諭　五百蔵　正　雄

《はじめに》

７月20日から７月30日まで、ノルウェーのサンデフィヨルドで行われた第１回Ｊｒ世界選手権大会に女子コーチとして参加した。

海外遠征は初めてで、言葉で言い表せない国際大会の雰囲気をはだで感じることができたのは大きな収穫であり、試合の合間、宿舎で各国の選手、役員と交流できたことは選手はもちろん、私にとっても大きな精神的な財産になった。

以下のレポートは現地で書きとめたものを帰国後まとめたものである。

◎参加者と国内選考会記録（1991.6.14）

女　子

順位	氏　　名	所　　属	学年	第一次予選	第二次予選	総合計
1	小橋川眞裕美	宜野湾高校・沖縄	３年	1221	1184	2405
2	谷　岡　和　子	甲南女子高校・兵庫	３年	1170	1126	2296
3	下　田　眞　弓	三本木農高・青森	３年	1160	1120	2280
4	吉　田　しのぶ	所沢中央高校・埼玉	３年	1193	1084	2277



谷岡　　吉田　　下田　　小橋川

◎Ｊｒ世界選手権大会での記録（1991.7.30）

女　子

1.	Denise PARKER	（ＵＳＡ）	1336
2.	Natalie PISKOKHA	（ＵＲＳ）	1289
3.	Olge IAKOUCHEVA	（ＵＲＳ）	1256
13.	小橋川眞裕美――宜野湾高・沖縄	（ＪＰＮ）	1214
14.	谷岡　和子　――甲南女子高・兵庫	（ＪＰＮ）	1205
18.	吉田しのぶ　――所沢中央高・埼玉	（ＪＰＮ）	1191
20.	下田　眞弓　――三本木農高・青森	（ＪＰＮ）	1184

女子団体（参加団体１１ケ国）

1　ＵＲＳ　3797　　2　ＧＥＲ　3650　　3　ＰＯＬ　3613　　4　ＪＰＮ　3610

◎トレーニング及びコンディショニング

7月21日　（晴）

20：30（現地時間）ホテルに到着。

選手全員疲労のため食事を取らず消灯。

7月22日　（晴）

7：00　ホテル前集合。

約１時間をかけ試合会場・練習会場を下見し、競技会に対する意欲が湧く。軽い体操をこなした後、ホテルに帰り、朝食。（以後、毎朝同じように体操をする。）

9：00～12：00
15：00～17：00　クラブフィールドにて練習を行った。

日本選手は、全員違った環境での練習に最初は戸惑いながらも、若さのなす技か、すぐにソビエト選手たちと打ち解け、楽しそうに射っていた。

私の見た感じでは、日本ではあまり見られない緑と自然に囲まれた広大なクラブフィールドでの練習は、現地到着までの２日間、弓に触れられなかったという焦燥にかられたような思いを爆発させるがごとくであり、また、天候や気温・湿度も最適な中で、とても気持ち良く楽しそうであり、かつ、適度な緊張感をも持ちながらの練習であった。（当日を含め、以後の練習時には必ず入念な準備運動→近射→距離練習→近射→整理運動というパターンで行った。）

20：00　ミーティング。

１時間のミーティングを行った。

・小橋川　「時差ぼけなく、気持ち良く射てた。」
・谷　岡　「移動で２日間射てなかったが、今日はいつもと同じように射てたので良かった。」
・吉　田　「自分のペースで射てた。あぁせぇ、こぉせぇの指示が無く、良かった。」
・下　田　「自分の思い通り射てた。飛行機の離着陸にスリルがあった。」

◎　一日目が終わり感じたことは、選手は不安よりも「ノルウェーで射てることの方が楽しい。」そんな感じであった。

7月23日　（晴・風少々あり）

本日から練習会場での練習が始まる。昨日までのクラブフィールドとは違った

雰囲気での練習である。午前中に長距離、午後に短距離を射ち、スコアをとりながら調整をした。

・小橋川　261・313・286・333…1193
・谷　岡　293・299・266・328…1186
・吉　田　244・299・277・318…1138
・下　田　260・288・280・334…1162

午前中は、ノルウェーに来て初めてスコアをつけるということで、適度な緊張感を保ちながら良い練習ができたが、午後になると各国の選手が続々と練習場に集まって来たためその方が気になり、また、矢取りのリズムがゆっくりしているなど日本国内での練習とは勝手が違うことなどもあって、集中力に欠けたようで、スコアも思うほどには伸びなかった。

◎　海外における競技会では、このような、いわばのんびりとしたペースというのが普通のことのようであり、これに対する認識が無く、また、そのことによって自国の選手をイライラさせてしまったり集中力を欠かせてしまった自分がはがゆく思えた。

19：45　ミーティング。

1時間のミーティングを行った。

・小橋川　「気持ち良く射てたが、50Mは押し手を気にしすぎた。苦しくなった時『どうでもいいや』で射った矢が何本かあった。」
・谷　岡　「長距離は気持ち良く射てたが、短距離は全然入らなかった。最後の近射で気持ち良く射てたので、明日はいい射ち方ができると思う。他国の選手はあまり気にならない。」
・吉　田　「周りの選手に圧倒されて、自分が外すと恥ずかしいと思ったので狙い過ぎてしまい、余計に外してしまった。」
・下　田　「今日は午前中より午後の方がいい射ち方ができた。明日も今日みたいにリズム良く射ちたい。」

7月24日　（晴）

本日は午前中2時間だけで切り上げた。午後から市内観光の予定を組んだので、できるだけ充実した2時間にしようという姿勢で臨んだ。選手もそれに応えるべく、自覚を持ち、内容のある練習となった。

19：45　ミーティング。

20分のミーティングを行った。

明日の公開練習のスケジュールを伝達する。

◎　選手のコンディションはベストのようである。この良い雰囲気のまま、公開練習と競技会に臨みたいと思った。

7月25日　（晴）

10：00　公開練習

◎　「各自、自分の納得の行ったところで終われ。」と指示し、私の目から見た選手の出来上がり具合と、選手自身が練習を終了したときがほぼ一致したので、「明日はいけるだろう。」と思った。

コンディションはベストのまま継続されていると思う。明日の第1日目もこの状態でいきたい。

午　後　フリー

16：00　開　会　式

選手に緊張の色は見られず、各国の選手団と交流するなどして楽しい雰囲気で開会式を終える。

19：30　ミーティング

３分のミーティングを行った。

「とにかく頑張れ。リラックス・リラックス！団体１ケタ目標。」

7月26日　（晴）

８：15　宿舎出発（コーチ・選手やや緊張気味）

９：30　競技（試射）開始　　全員気持ち良く射っているようである。

・小橋川　283・302…585（16位）
・谷　岡　300・313…613（５位）
・吉　田　283・290…573（20位）
・下　田　249・295…544（30位）

・団　体　1771（４位）

選手は全員緊張はしていたが、明るく伸び伸びと射っていた。

☆　谷　岡　60M　313点は自己新記録

7月27日　（晴）

いつもと同じ朝を迎え、緊張感なく、リラックスしているように思える。

８：15　宿舎出発

９：30　競技（試射）開始

この日は初日の成績によって立ち順が変わり、谷岡が上位選手陣の標的で競技したためか、前日とは打って変わり緊張気味でスタート。他の３人は伸び伸びと射っている。

・小橋川　293・336…629…1214（13位）
・谷　岡　273・319…592…1205（14位）
・吉　田　294・324…618…1191（18位）
・下　田　306・334…640…1184（20位）

・団　体　3610（４位）

☆　下　田　50M・30M・ハーフ・シングルにおいて自己新記録

◎　谷岡の緊張をほぐせなかったことと、団体で50M終了時にポーランドに１点差をつけて３位でありながら30Mで逆転負けを喫したことが悔やまれる。

30Mの競技においてポーランドを意識して射たせるべきであったか、意識させずに射たせるべきであったか（結果的には意識させなかったのだが…）。どちらが良かったのかは未だに疑問である。

私１人では自国の選手とポーランドの選手の的中を把握できなかったこと。また選手との間でのコミュニケーションがしっかりとなされないままだったので、「ここ一番」というところでどれだけの力を発揮してくれるかが分かっていなかったことに不安があった。この二点に敗因があると考えられる。

《総　括》

今回初めて世界大会に参加させていただくこととなり、日本での２回の合宿を含め大変勉強になった。また、自分の力のなさと知識不足を痛感した。

外国と日本を比較して、違っていたところや気のついたところをいくつか挙げてみたいと思う。

・まずは弓具である。日本選手は高水準の弓具を使用しているが、ソ連においては10年前の弓具を使用している。また、リムは出場選手のほとんどがグラスであった。外国の選手は表示されている引き重量そのままのリリースを発する射型でシューティングしているのだが、日本人の使用するカーボンリムでは、表示された重量以上の力でリムが矢を飛ばす状態であるためか、選手自身が、使用している弓具を十分に使いこなせていないのが現実である。このことは、ジュニア選手において興味深く、考えられるところは今後研究していきたいと思う。

・射型においては、外国選手の力強さを感じた。まず体格・パワーの差が歴然としている。そして選手一人一人が個性あふれるフォームをしており、これを見抜き育てるコーチの目の鋭さが分かった。10歳くらいからアーチェリーを始め、２～３年じっくりと基本を作った成果が現れていると考えられる。

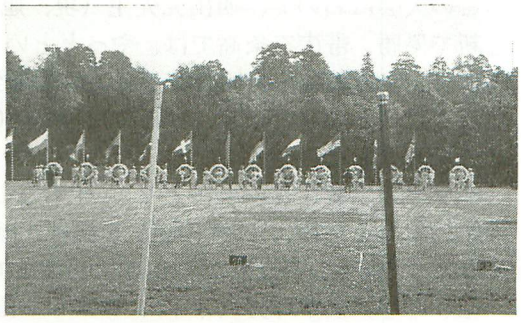
・そういうことをも含め、コーチ・選手双方がお互いに良く理解しあっているように思えた。現在の日本のようなシステムではそこまでは無理があるように感じられた。
どのように選手を発掘し、指導していくかが今後の課題であると思う。

・精神面において、日本選手には目立った緊張は見られなかったのだが、それにも増して、外国選手は「世界大会」という雰囲気もなく、競技会に臨んでいた。これは、国同志で練習試合や合同合宿を開催している成果のようで、他国の選手間での交流が日頃からあるように見受けられた。地域性のこともあるが、世界に目を向けるならば今後このようなことをわが国でも考えていく必要性があるように思われる。

・食生活面で感じたことは、今回日本食を食べずに競技に臨んだが、その方が良いのか、あるいは少しでも慣れた食料を持っていくのが良いのか、どちらであろう。日本選手を見ていると、食事が変わったために生理的欲求がアンバランスになり、体調がうまく整わなかったのではとも考えられた。

・行射前のウォーミングアップでは、丁寧にゆっくりと時間をかけて各国ともにしていたのには驚いた。特にイタリアチームには勉強し、吸収するべき点が大変多く、今後研究・応用していきたい。

・とにかく、自分自身の語学力のなさから、他国のコーチや選手と会話ができず、技術や精神面での指導方法などを吸収できなかったことに対して大変悔やまれた。会話のできるコーチをチーム内にいれておく必要性は、今回痛感した。

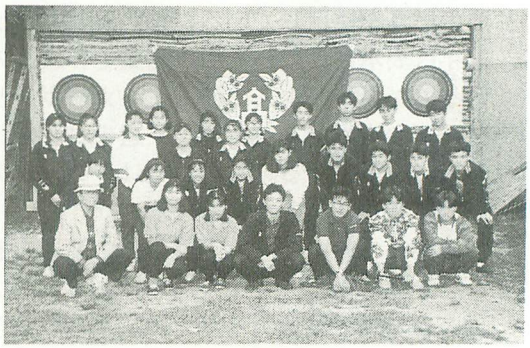


最後に、若輩でかつ非力な私を採用していただき、このような機会を与えて下さった関係機関の方々に厚く御礼を申し上げると共に、今後日本国内のジュニア選手育成にこの経験を生かし、役立てられれば幸甚に存じます。

〔学校紹介〕

アーチェリー創部十年の歩み

北海道帯広三条高等学校
顧問　川瀬光政


現在の部員数

私事、アーチェリーに対しての知識は、まったく、皆無の状況であった。私に、アーチェリーの楽しさ、むずかしさを、教えて頂きましたのが、西出元先生（現、北海道旭川工業高等学校勤務）で、かっては、北海道幕別高等学校に、同僚として、一緒に勤務していたことで、その幕別高校時代、初めて、秋季全道大会を開催することを機会に、アーチェリーが、私にとって生涯スポーツとして、抜けるに抜けられない状態となってしまったことです。

さて、昭和55年に、帯広三条高校に赴任することになり、早速、クラブを創らねばと、そのためには、まず担任をもち、我がクラスの生徒を引きずり込んで呼び水とし、総勢十余名程集まり、早速、指導に入りました。昭和56年９月、同好会として発足、最初は用具等が無い状況でしたけれど、幸いに、帯広には、帯広アーチェリー協会（船津宗忠先生）があり、練習場として市営のアーチェリー場を利用させて頂き、また、オビヒロアーチェリーロビンフッドさんの御協力により用具を借用したり、また、冬季の練習場として提供して頂いたりしました。

昭和59年４月、待望の部に昇格、クラブ予算も初めてつき、小規模ながら本格的な活動ができるようになりました。

９月には、初めて秋季の全道大会に出場（新人戦・札幌市）、男子団体、準優勝、男子個人でも、準優勝と、早くも成果が現れだしたところです。

十勝では、昭和58年には、道高体連十勝支部に加入し、春季、秋季と十勝予選会を開催し、全道大会に参加することになっていることから、選手達は緊張感がみられる。（北海道では十勝のみであるが、各地域で開催されることが望ましい。）

昭和62年、北海道高体連にアーチェリー部門が加盟、その第一回の記念大会が帯広三条高校特設レンジにて開催されました。

この大会において、西出元先生（現、旭川工業教諭）が率いる幕別高校男子団体が北海道新で優勝、帯広三条高では、やっとという感じで、女子個人、杉本美香（608点）で準優勝にて、全国大会への切符を手に入れ感慨無量でした。また後、国体の予選会にも勝利し、北海道代表となり、京都（日吉町）、沖縄（海那国体）へと参加し、それなりの頑張りをみせてくれました。

クラブの伝統作りの一歩として、土台をしっかりと考え、クラブの目標に、「不屈の精神」、進学校であるため、「文武両道」を掲げ、指導することで、今まで以上に、頑張りを持たせてきた。（教科の不良点があれば、回復までは休部させる）

昭和63年、橋本輝男（３年）、はまなす国体、平成元年、野田康一（３年）全国高校（北

九州市)、坂田晋一（３年)、とびうめ国体、平成３年３月、菅原祥文（３年)、及川美智子（３年)、全国選抜大会（名古屋)、同年、菅原祥文（３年)、永田寿代（２年)、石川国体、右、それぞれ個々人ではあるけれど、各々努力もし、勝利を手にし、活躍をしてきた。やっと指導の効果が現れたのかと自負しているところである。今後の最大の目標は、男女とも団体にて全国制覇することを念願としているところである。が…

平成五年度より、新ルール（シングルでグランドルール）になる予定のようなので、苦慮しているところです。技術面では、問題がないが、練習場の問題がある。現在、50M・30Mの射場が校地内に設置されているが、シングルランドは困難である。全道各校とも同じ悩みを抱えることであろう。

ともかく、帯広三条高校が、この十年間の歩みの中で、ある程度の実績を得ることができたと、考えるところです。

これも、船津宗忠先生（全日本アーチェリー連盟会長代行）を初め、西出元先生、オビヒロアーチェリーロビンフッド（五十嵐邦夫氏)、帯広協会、十勝管内の高校（帯広工業・幕別高校・清水高校）各顧問の先生方等の細心なる御指導の賜ものと感謝しています。

今後は、全道のレベルアップのため、選手には、「参加することに意義がある」だけでは、だめ、「勝利する味わいを」ということで、ハングリーな気持ちを持たせることが必要かなと考えているところであり、各学校、各関係機関と力を合わせ努力していきたいと考えます。

石川国体参加者



○菅原　祥文（少年男子３年）
○私（コーチ　川瀬光政）
○早乙女明子（成年女子三条出身）
○永田　寿代（少年女子２年）

発展途上アーチェリー部

山形県立鶴岡南高等学校
アーチェリー部監督　野　崎　　剛

本校は、創立104年と山形県の中でも最も古い高校の一つであり、文武両道を伝統としています。生徒のほとんどが国立大学合格を目指す進学校であると同時に、部活動も大変盛んな学校で過去多くの部がインターハイ・全国大会等に出場しています。

アーチェリー部は、平成４年に行われる「べにばな国体」のアーチェリー競技会場が鶴岡市に決定したことがきっかけとなり、「地元の高校にアーチェリー部を」との山形県競技力向上対策本部からの要請に応え、昭和61年秋、当時の体育主任三部哲先生によってつくられました。

当時の話をお聞きしますと、アーチェリーという競技を知っている生徒は皆無に近く、勧誘しても生徒はほとんど興味を示してくれず苦労したこと、やっとの思いで部員を集めたものの先生も生徒も全くの素人であり、県から貸与された弓を前にしてただ立ちつくしていたことなどの、エピソードが多く出てきます。練習場所も校内には無く、地元アーチェリー協会の練習へ月に数回参加するだけの活動でありましたが、すべてが新しい発見であり楽しくアーチェリーをしていたそうです。

このようにして作られた部を私が引き継いだのは翌62年の４月でした。その頃から練習状況は少しずつ改善され、鶴岡市の協力によって学校から自転車で20分程離れた小真木原公園の仮設のアーチェリー場が整備されましたが、弓具不足や練習時間の制限などの問題は解決されておらず深刻な状況でした。そんな状況もさることながら、実は私を最も不安にさせたのは練習に集まった生徒の多さでした。地元協会のＰＲの成果で、本校の他に３高校、２中学にアーチェリー同好会が作られたのです。その数約120名。これに対して指導者は大学を出たての若僧が１人です。「これだけの生徒を指導していけるのか、アーチェリーを教えていけるのか、本当に強くできるのだろうか」と不安ばかりが先立ちました。

ところがどうでしょう、私の不安をよそに生徒たちの目はいきいきしているのです。練習時間の中で弓を１度もさわれない日があるような練習にもかかわらず、生徒はがんばってくれたのです。「先生！アーチェリーって楽しいじゃん」そんな生徒の素直な言葉に勇気づけられました。「やれるだけの事はやってみよう、やるしかない」こうして私は指導者としての第一歩を踏み出しました。

もともと０からの出発ですので失う物も無く、生徒も私も怖いもの知らずですから

―生徒Ａ―「先生、矢を乗せる細い棒（レスト）壊れたよー」
―　私　―「んー、困ったな。とりあえずダンボールでも付けておくか」

さらに、

―生徒Ｂ―「先生、時々裏からキジが出てくるんだけど、射ってもいいかなぁ？」
―　私　―「だめだー!!」

冬になると……

―　私　―「今日は冷えるなぁ、体育館の中は今何度くらいかな」
―生徒Ｃ―「外がマイナス５度くらいだから、マイナス２～３度じゃねぇかな」
―　私　―「え!?……き、気合い入れていけよ!!」

こんなおかしな出来事が次から次へとおこったのです。

しかし、うまくいくことばかりではありません。練習は何とか軌道に乗り始めたのですがまた新たな不安が生まれます。部の実績をあげなければならないからです。その不安を紛らわせるために、毎日生徒に我武者羅にアーチェリーを教えました。しかし、「勝たなければ、強くしなければ」との焦りが日ごとに強くなり自分自身にプレッシャーをかけ、無意識のうちに生徒に一方通行の押しつけ指導をするようになっていたのです。生徒に辛い思いをさせたことも多くありました。私の顔から笑みが消え、粗野な言葉遣いになり、無理な練習を強制してしまったのです。このような指導では成績が伸びるはずもなく、焦り、悩む、そしてまた生徒に辛くあたるということの繰り返しでした。指導についてこれず悔しい思いで辞めていった生徒も少なくないはずです。

自分の未熟さを痛感し、指導は生徒と指導者の信頼関係がなければ成り立たないと改めて思い知らされました。

このように、最初の１～２年は暗中摸索、試行錯誤の連続でしたが、それらの経験が現在の指導方法を確立してくれたように思います。

また、未熟な私がここまでやってこれたのは、三部先生をはじめ各高校顧問の先生方と多くのアーチェリー関係者からご協力をいただいたこと、さらに全国大会、国体等で全国の先生からの温かいアドバイスに支えられたからだということを忘れてはなりません。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。そして何より私の無鉄砲な指導に耐えアーチェリーを続けてくれた生徒のおかげです。

アーチェリーの指導を始めて５年が経ち、いよいよ「べにばな国体」の年です。創部当時からの念願だった専用のアーチェリー場はいまだにありません。冬はジプシーのような練習状況が続いています。しかし生徒も私も焦らずにがんばっています。焦ればまた逆戻りです。生徒との信頼関係を更に強くし熱心な指導を心掛ければ結果はおのずとついてくるのではないでしょうか。

鶴岡南高校アーチェリー部には過去のインターハイ、国体等で目立った成績はほとんどありません。しかし、もともと何もない我々ですから見るのは上だけです。どこまでやれるかわかりませんが、また生徒と一緒に精一杯努力します。そして楽しくアーチェリーを教えていきます。発展途上の鶴岡南高校アーチェリー部に御期待下さい。

1991全国選手権大会優勝校

新３期の世代を迎えて

私立同志社高校
アーチェリー部顧問　弘　英正

18年にわたり本クラブを育ててきた前任者の突然の退職で、ど素人の私が顧問を仰せつかったのが90年度。１日36時間ほしいほどの過去のしがらみを引きずっており、何も出来ませんでした。にもかかわらず、90年度Ｉ.Ｈ.森本淳子個人優勝、91年度菊井雅志・冨田博之・松井宗大・伊賀嘉則チーム団体優勝をなしとげました。その要因は、第１に本人たちの資質と努力、そして部員全体の盛り上がり（91年度46名）、京都府強化部の先生方のご尽力、強力なＯＢ会・部員の身の上相談にまでのっていただいている京都のドンＨ氏・したたかなライバル校（練習試合をお願いした、神奈川・福井・大阪・兵庫・滋賀の延べ15校を含む）の存在etc.etc.恵まれた環境にあったといえます。で、特にこの稿では、ＯＢ会から派遣されてくるコーチ（無給・ボランティア）の存在を挙げてみたいと思います。

私が顧問になった時点では、高田治裕氏（６代目）でしたが、20才にして既に氏は、優れた指導者の条件のいくつかを持っていました。

①研究熱心である　至る所で、雑談の中ででも技術論を戦わせていた。

②ひとに優しく自分に厳しい　雨の試合で、選手も濡れているんだからと、自分も雨の中に立ち尽くしていた。

③お茶目である　試合前夜のミーティングから既に、抱腹絶倒ギャグの連続で、選手はもう超リラックスだった。

さて、氏が入部した86年当時、本クラブは伝統校として、また大学の影響をモロに受ける学内校として、バツトレの存在に象徴されるように、しっかり体育会系していた。それかあらぬか、部員は減少の一途をたどっていた。おきまりの、クラブ生命を賭けた練習ボイコットもあったりして。氏は勿論その体育会風というヤツに耐えるべきだと思うし、耐えた。しかし部の現状を見、もっと皆が弓を楽しめる部にしたいと思う。87年２年時より部長（部員８名）。３年時、みんなの“いいクラブを”という摸索に応えるように、どっと28名新入部員があり（先述の森本の学年です。これを新１期と仮称する）、91年度夏合宿までコーチをやり、その４年間、部づくりに色々摸索した。

コーチとしての氏は、ピラミッドの頂点にいて命令するのでなく、逆三角形の底点にいて、各人の活発な動きをサポートした。〈動き〉を起こさせるための仕掛けは必要なわけで、選手一人一人に対してコメントを書くノートを作ったり、日誌を書かせて（それにも氏はせっせとコメントを書いていたが）自己管理の資とさせたりした。伝統的な、先輩が後輩の練習を見るシステムも、より整備された。そういった中で、選手一人一人が自主性を大事にして自分で判断し、自分に自信をもち、アーチェリーやクラブそのものを楽しむという新しい伝統を作ってきた。

90年度夏合宿のミーティングで、初めて足を崩すのが許されたと聞いて驚いたが、91年度のそれでは笑い声がしばしばあがり、３年のある女子部員など、この雰囲気がほしかったんだ、としきりに嘆じていた。

ただクールな氏にはその先が見えているらしく、一人一人が強烈な内的緊張を持ち続けないと、これが更に崩れて、団体競技としてのアーチェリーのけじめがなくなってバラバ

ラになり、再度体育会風〈バツトレ〉雰囲気が呼び戻され——というように、このサイクルが緩慢にくり返されるかもしれない、と述懐している。

勿論我々は、そのサイクルは断ち切るべきであり、塩田先生に率いられ鉄の規律（？）を誇る菟道軍団、レンジ狭少のため自由時間制を敷きながら、鋭いアーチャーを突如出現させる紫野高校とのちょうど中間にありながら、我々のアーチェリーを貫徹したいと思います。高田イズムも、新１期の平野智弘・湯浅洋子両氏を中心とする現コーチ陣（７名）に引きつがれています。で、私は？　私も４月から新入生にまじって、レンジに立ちたいと思っております。

では、現コーチ・部員諸君の一言を、スペースの許す限り紹介しましょう。

■私が入部した当時はちょうど高田先輩達の代がクラブの改革を始められた時で、厳しいクラブにいた先輩方にとって私達の行動は目にあまるものがあったらしく、度々真剣なミーティングがくり返されていた記憶がある。それでも私達は、頼りないなりにもそういった雰囲気をくみとって、自分達自身はある程度の厳しさ・真剣さを持った。しかし私達はそれの下の代に伝えきれなかったように思う。今のクラブはなごやかで楽しいが、クラブの変革・人数の増大によって、一人一人の自覚に欠ける。部員それぞれが自分の才能に気づき、インターハイを目指して“自分こそ同志社高校アーチェリー部のポイントゲッターになるのだ”という自覚を持って練習に励むようになれば、同志社高校は更に強いチームになれると思う。我々コーチ陣の仕事は、部員の持つ才能を本人に気づかせて、自信を持たせる手伝いをすることだと思っている。（棚田香里）

■クラブの練習は顧問の先生がノータッチなので、クラブは自分達の手で作っていくんだという自覚をもって練習に励んでいます。（谷口純平）

■“先輩から後輩へ”というＢＡＳＥに基づいて、クラブ内の雰囲気が、上下関係をこえた同じＣＬＵＢを運営する一員として、よく言われる“0ne for all,All for one”に限りなく近い状態になっていると思います。（馬場理子）

■アーチェリーは個人競技とばっかり思い込んでいましたが、それは大きなまちがいで、協力し・助け合い・励ましあって新たなライバルを作り、成績をあげていくという、思った以上に大変で深いスポーツでした。だからライバルの多くいるクラブにしたいです。（高橋　理）

■夏まであと４ケ月。今僕にできることは、とりあえず僕がみなをひっぱってクラブに火をつけなければ！（伊賀嘉則）

■いよいよぼくたち１年の時代がやってくるので、みなさん、“攻撃主義”でがんばりましょう!!（久保　徹）

['92.1.26.]

1991全国選手権大会優勝校

我が師は教え子たち

福岡県立折尾高等学校
アーチェリー部顧問　岡　部　美義男

この会報のチーフ、吉田五衛先生に「折尾高校はたびたびで大変でしょうが―」と丁重な原稿依頼がありました。書くことは逃げ出したくなるほど苦手ですが、ネタだけはあと何回優勝しようと大丈夫です。でも「これが最後かな」「もうないよ」とか「また勝てたら次は―」などと、いろいろな思いがめぐって、なかなか稿がすすみません。

昨年は、いいアイディアだと考えたのですが、慣れない座談会で生徒たちに日頃にない固さが出て―。そこで今回は書いてもらうことにしました。題して『岡部先生（監督）を紹介します』。正直に・ゴマスリなし・〇〇日提出、が私の注文。さて――

玉井見魅異（３年）

私は初めて岡部先生に会ったとき“なんだか怖そうな先生だなぁ”という印象でした。でも、先生と一緒に部活をしていくと、とても楽しい先生で最初のイメージとまったく違っていました。

私は先生を観ていていつも感心することがあります。それは、頭の回転がすごく早く、人と違うとてもユニークな発想をなさることです。また、どんなことでも良い方向に考えられることです。私だと落ち込んでクヨクヨするようなことでも、先生は良い方向に考えて次のステップにされてしまいます。でも、先生から叱られたときはすごく怖いです。今までは父が一番怖いと思っていたけど、先生の方がもっと怖いです。でも私達に必要なことを一生懸命に教えてくれているのだと思うと嬉しくさえあります。

岡部先生は、アーチェリーだけでなく、後悔しない生き方を教えてくださる先生です。【ＯＫＡＢＥ；何事についても、４～５通りのことを考えておく。たいてい１・２番目のアイディアはボツで３・４番目が良いようだ。そんなことを沢山インプットしておくとすぐに役に立つものです。こんなの常識ですよね。】

野村　寿美（３年）

私は初めてアーチェリー部を見学したとき、先生を見て「すごく優しそうだなぁ」と思いました。入部してからもそれは変わらなかったけど、反対の怖さも知りました。先生から叱られたとき、最初は「なんで叱られたかわからん」と思ったこともありました。だけど、半年・１年と過ぎていくうちに、自分の悪かったところや先生が言いたかったことなどがわかってきました。先生の怖さはすごく大事な“優しさ”なんだなぁと、２年生ぐらいになってやっとわかってきました。岡部先生には何でも言えるし、とても頼りがいがあって、２番目のお父さんという感じがします。

【ＯＫＡＢＥ；この世で１番の仲良しは『夫婦』。見知らぬ男・女だったのに。いや―!?】

村上　千夏（３年）

私たち折尾高校アーチェリー部監督の岡部先生は、他のどの学校のどの部の先生よりも、私たち部員といる時間が長いのではないかと思います。そしてまた、他のどの先生よりも

熱心だと思っています。家で部活の話をしますが、その度に先生の話が出てきて、あれだけ熱心に部員のことを考えてくださる先生も珍しいと家族でも話しています。朝も早くから夕方遅くまでずっと私たちに付き合ってくださっています。いつも「家族サービスをする暇がない」とおっしゃるくらいに学校にいる時間が長いので、大変だなぁと思います。そんな生活を折尾高校の17年間（水泳部10年・アーチェリー部７年）も続けているなんて、とってもＰＯＷＥＲＦＵＬだなぁーと思います。

【ＯＫＡＢＥ；自慢の一つです。女房いわく「私の自慢は、亭主と一緒の時間が短いこと。」】

谷口　和子（３年）

岡部監督のことを一言でいえば、「すごく熱心な監督」です。何をするにしても決して手を抜かないし、いつも私たちのことを娘のように可愛がってくださると思います。遠征や合宿のとき、ミーティングでは必ず一人一人に悪かった所などをやさしく注意してくださり、試合では明るい表情を見せてくださいました。また、私たちが監督と過ごした時間は、ご家族と過ごされた時間より長いかもしれません。

私は本当に岡部監督に出会えてよかったと思っています。迷惑もいっぱいかけました。でも、アーチェリーのことは勿論、生活面などに関しても色々なことを教えていただき感謝しています。

【ＯＫＡＢＥ；毎年明るく元気に卒業して行きますが、いつも残される私は娘を嫁に出す父親の心境なのです。クシュン！】

加藤　美紀（２年）

“岡部先生”といえば“時間に厳しい”ことをすぐ思い浮かべます。例えば、私たちはほとんど先生の車で試合などに行きます。その場合一人一人待ち合わせる時間と場所が決まりますが、先生は必ず５分～10分前には待ち合わせ場所に到着されています。そして、約束の時間までは待っていてくださるけど、１秒でも遅れたら置いてきぼりにされてしまいます。水泳部で２回、アーチェリー部の先輩が１回こんなことがあったそうです。私が入部して２年近くなりますが、まだ置いていかれた人は見たことありません。それだけそれだけみんなも先生に習って、時間に対して厳しくなっているんだナアーと思います。また、練習でも決まった開始時間ピッタリに始まります。遅れようものなら……。

私もみんなも、先生のおかげで時間厳守ができるようになりました。

【ＯＫＡＢＥ；人を尊重する大切なことの一つだと思うから。でも置いていった時は心配で―】

古川　公恵（２年）

岡部先生を始めてみたときの第一印象は、色の黒い先生だなぁということでした。そして話していると、元気な先生だなぁと思いました。岡部先生は手術をしても回復がはやく、とても50歳を越えているとは思えません。学校に自転車でも来られる元気な先生です。それに、時間にも礼儀にもとっても厳しい先生です。アーチェリー部に入ってから私たちも随分と時間や礼儀に厳しくなったと思います。特に時間に関しては「遅い人に合わせるな！」と、よく言われます。アーチェリー部に入って本当によかったなと思っています。

【ＯＫＡＢＥ；ガキのころからずーっと太陽の下で動きまわってきましたし、これからも“日向人間”でありたいと思っています。でも首から下はそうでも――これホコリです。】

池田知佳子（２年）

岡部先生でまず思い浮かべることは、すごく健康に気をつかわれていることです。まず、毎朝自分で作って飲む野菜ジュース。蜂蜜やリンゴ・ヨーグルトなどを加減したりして飲みやすくする工夫は、アーチェリー指導と同じだと思います。それから、毎日自転車で通勤すると言うことでしたが、これはいつの間にか車に戻ってしまったようです。

また岡部先生の発想にはいつも驚かされます。例えば、ボウスタンドを作るにしても、何通りかを考え、良い方法を組み合わせて最高の物を作ってくださいます。そんな、普通の人では考えもつかない発想力があるからこそ、私たちは楽しくアーチェリーを続けてこれたし、折尾高校アーチェリー部が強くなった秘密だと思っています。

【ＯＫＡＢＥ；たしかに工夫と作るのは自分ですが、準備は〇〇です。またバレてしまった】

泉　麻衣子（２年）

初めてアーチェリー部の岡部先生を見たとき「元気のよさそうな先生だ」という印象でした。それはズバリ当たっていて、スポーツ指導なら何でもやり遂げる先生です。

部活では、私たちのことをとってもよく考えていてくれて、いろいろとアドバイスをしてくださいます。そのおかげでアーチェリー部員は一致団結でき、全国２連覇を２度も達成したチームができたのだと思います。

でも、その岡部先生にも欠点があります。それは、健康のために毎日自転車に乗ってくるとおっしゃっていたけれど、三日坊主だったことです。先生はちょっと飽きっぽいのかもしれません。岡部先生、健康のためにまた自転車でがんばってみて下さい。

【ＯＫＡＢＥ；口は災いのもと。心しましょう！私はなぜか道具が多くて―反省】

和田　恵子（１年）

岡部先生は、とてもユーモアのある先生だと思います。でも、叱るときはすごく怖い先生です。私は、今までに何度も叱られました。

また、アーチェリーのことに関係なくいろいろなことを教わりました。もちろん、アーチェリーのことはたくさん教わりました。まだ知らないことはたくさんあるけど、アーチェリーを始めたころにくらべると、ずいぶん成長したと思います。何度も同じところを注意されるのに、なかなかよくならないので先生に悪い気がします。

【ＯＫＡＢＥ；アーチェリーだけ教えていたら、とてもじゃないが数カ月ももちません。】

寺尾　美香（１年）

岡部先生との初めての出会い―それは部活動見学の時だった。先生に活動内容を質問すると「走ったりはしない。そんなに走りたかったら陸上部へ行け。」の返事。それを聞いて私は「おおーっ、なんてすばらしい考えを持つ先生なんだ!!」と、えらく感動してしまった。私をこんなにも感動させてくれる先生なのだから、この部に入ってもけして損はないだろう。しかし、こう思ったのもつかの間、15歳の春にして私は「人を第一印象で判断するのはよくない」という事をイヤというほど思い知らされたのである。ここまで読んで、岡部先生はショックを受けているかもしれないが、67%は冗談です。

岡部先生は楽しくて頼りがいがあって、すばらしい監督だと思います。（これは本当）。

こんなにすごい先生（監督）には出会ったことがない！というくらいです。ただ「冗談きついよ～」と思うことが何度か、いや何度もありますが――。
【ＯＫＡＢＥ；では33%は本気。こんな正直で憎ったらしい部員は初めてだ。スペシャル期待もの】

森山　靖子（平成２年卒業生）

５年前の春、岡部先生とアーチェリーとの出会いが始まった。これからも当分続いていくだろう。先生は、時間にとても厳しく、１分の遅れも許されない。また反対に、決めた時間より早く射ち始めて怒られたことがある。（先生は、「つけ矢の状態から見たかった」と言われていた。）その時に怒った先生の顔は、今でも脳裏にはっきりと残っている。とにかく、時間にはすごく厳しい。「人間関係の基本だ」といつも言われている。

また、豊富なアイディアで、何でも創り出してしまわれる。ユニークで有効な練習法、楽しくて愉快な練習法、三脚、ボウスタンド、冬に必需品の焚き火用のドラムカンなど、数え上げればきりがない。とにかく、生き生きとした、面倒見のいいお父さんと言った感じだ。そして、アーチェリーの楽しさや、ライバル意識の燃やし方なども教えて下さった。心から感謝しつつこれからも練習に励みたい。

最後に、卒業生・現部員・私にとって名実ともに日本一の監督・先生なのです。２度目の３連覇チャレンジが成功しますよう、心から祈っています。
【ＯＫＡＢＥ；いやいや、そうであれば『日本一の教え子たち』がやったこと。】

岡部　由布（平成元年卒業生）

アーチェリー部員の岡部先生に対するイメージは、「アイディアが豊か」とか「面白いことを言われる先生」というのが圧倒的に多いと思うけど、そんなアイディアや発想が豊富なのは、先生が学校だけでなく、車の運転中も家に帰ってからも、ずーっと１日中アーチェリーのことを考えているからなのです。テレビを観ていても「アッこれは使える！」とか、買い物に行っても「これは○○の代わりになるぞ」とか、本当にいつも、どこでも24時間考えているのです。その証拠に、寝言でまで部員の名前を呼んでフォームをチェックしたり、叱ったり褒めたり、笑ったりしているのです。母など「ハイッ！」「ハイッ！」と代返してあげています。こんな先生ですから、折尾高校アーチェリー部や福岡県高校を短期間で強くでき、すばらしい卒業生たちが育ったのだと私は思っています。

私はアーチェリー部の卒業生としてだけではなく、娘として他の部員が知らない先生を知っています。知りすぎて、知られすぎて嫌な面もありましたが、アーチェリーや部員（生徒）に対する情熱の強さを誰よりもよく知っています。私は、こんな先生・父を心から尊敬しております。
【ＯＫＡＢＥ；校門を入ったら先生と生徒、出たら親と娘、３年間の定期代が浮きました。また、かけだし監督の実験台として、得もしたが、大きな被害も受けた。可愛いモルモットちゃん御苦労様でした。女房いわく「一卵性親娘」。】

なんとけなげな生徒たちでしょう‼そもそも「正直に書け」なんて言う方が無茶、当然51%以上引きで読んでくださったことと信じます。

１年生２人が提出日に間に合わず残念でした。時間に厳しいこと、発想のこと、本気で叱ること、それに三日坊主のことなどよく見抜かれているものです。逆に私も、生徒一人

一人に関することは出来るかぎり知ることにしています。「生徒が自分のことを知っている」と思うことの何倍も、そしてそ知らぬふりをしています。その量が増えるにつれて、不思議と生徒がよく見えてきはじめ、姓で呼んでいたのが自然と名前や愛称で呼ぶようになってきました。人間関係に自信が持てる頃です。早かったり、遅かったりは当然ありますが、自ら、明るく意欲的に練習にとりくみ、私は振り回される役になります。

おろおろした、ひよこみたいな１年生が卒業までの３年間で目ざましい成長を［私はこれを「変身（心）」と呼んでいます。］みせ巣立ってゆきます。これからの長い人生を思うと、たったの３年間でしょうが、置き土産の「変身（心）」した数々の脱け殻を眺めながら、このすばらしい『師』たちから学んだことを、知恵とエネルギーにして、日々楽しくがんばっております。

選手権大会　栄光の歩み

（第１～19回：１日制、第20回～：男女別２日制で実施）

回数	男・女	団体の部	個人の部
第１回大会		(68'８.10.大阪府・東大阪グランド)	
	男子	浜松興誠高（静岡）1639.	稲川篤郎（浜松興誠高）577.
	女子	同志社高（京都）1419.	布浦裕子（同志社高）503.
第２回大会		(69'８.10.静岡県・県営草薙運動場)	
	男子	岸和田産業高（大阪）1689.	下向辰法（岸和田産高）573.
	女子	同志社高（京都）1470.	布浦裕子（同志社高）529.
第３回大会		(70'８.９.東京都・駒沢第一球技場)	
	男子	岸和田産業高（大阪）1606.	伊藤寿彦（岸和田産高）601.
	女子	同志社高（京都）1505.	熊谷登美（同志社高）527.
第４回大会		(71'８.１.京都府・府立大グランド)	
	男子	浜松工業高（静岡）1622.	亀井孝（同志社高）600.
	女子	甲南女子高（兵庫）1493.	井上典子（同志社高）534.
第５回大会		(72'８.４.神奈川県・三ッ沢球技場)	
	男子	横浜高（神奈川）1702.	角井和夫（広島工業高）583.
	女子	浜松北高（静岡）1601.	辻紀子（甲南女子高）552.
第６回大会		(73'８.５.東京都・駒沢第一球技場)	
	男子	愛知高（愛知）1764.	鈴木優（静岡三ケ日高）621.
	女子	同志社女子高（京都）1553.	辻紀子（甲南女子高）558.
第７回大会		(74'８.３.滋賀県・県営彦根総合運動場)	
	男子	同志社高（京都）1707.	河内敏雄（同志社高）600.
	女子	同志社女子高（京都）1644.	後藤有理子（同志社女高）573.
第８回大会		(75'８.３.愛知県・愛知学院大グランド)	
	男子	大阪工業大高（大阪）1753.	梅内秀和（八戸工大第二）646.
	女子	同志社高（京都）1586.	小里頼子（札幌啓成高）551.
第９回大会		(76'８.１.北海道・札幌真駒内アイスアリーナ)	
	男子	三本木農業高（青森）1810.	市川松治（三本木農高）633.
	女子	富士見高（静岡）1686.	佐野敦子（富士見高）592.
第10回大会		(77'７.31.宮城県・秋保森林スポーツ公園)	
	男子	慶応義塾高（神奈川）1817.	神野浩（慶応義塾高）627.
	女子	浜松商業高（静岡）1724.	松永弘子（富士見高）607.
第11回大会		(78'７.27.青森県・十和田市陸上競技場)	
	男子	愛知高（愛知）1785.	山本博（横浜高）639.
	女子	三本木農業高（青森）1641.	山内京子（浜松商業高）570.
第12回大会		(79'７.29.広島県・県営総合グランド)	
	男子	浜松工業高（静岡）1836.	山本博（横浜高）630.
	女子	山陽女子高（広島）1641.	大道理枝（山陽女子高）582.
第13回大会		(80'８.３.滋賀県・秦荘町民スポーツセンター)	
	男子	横浜高（神奈川）1925.	山本博（横浜高）670.
	女子	千葉英和高（千葉）1739.	大道理枝（山陽女子高）618.
第14回大会		(81'８.２.東京都・駒沢第二球技場)	
	男子	名古屋電気高（愛知）1888.	岐部恭史（大阪工大高）640.
	女子	大津商業高（滋賀）1794.	名倉裕子（浜松工業高）621.
第15回大会		(82'８.１.群馬県・川場中学校グランド)	
	男子	丹南高（福井）1817.	薄井雅美（馬頭高）625.
	女子	富士見高（静岡）1682.	平田さゆみ（札幌月寒高）598.

第16回大会	(83'８．７．奈良県・三宅健民運動場) ㊟雷雨の為、団体・個人共に63射迄の記録	
男　子	馬　頭　高（栃　木）1650.	池　田　辰　弥（慶応義塾高）571.
女　子	大津商業高（滋　賀）1587.	岩　波　ひろみ（大津商業高）543.
第17回大会	(84'８．５．鳥取県・東郷湖羽合臨海公園スポーツ広場)	
男　子	米　子　北　高（鳥　取）1904.	松　田　武　文（米子北高）643.
女　子	札幌啓北商業高（北海道）1816.	山　本　和　美（札幌啓北商高）620.
第18回大会	(85'８．11．山梨県・敷島総合公園運動場)	
男　子	米　子　北　高（鳥　取）1889.	室　伏　優一郎（横　浜　高）650.
女　子	大津商業高（滋　賀）1789.	児　玉　晶　子（米子北高）648.
第19回大会	(86'７．27．沖縄県・宜野湾市海浜公園多目的広場)	
男　子	横　浜　高（神奈川）1787.	蓮　田　秋　二（東京学園高）629.
女　子	札幌啓北商業高（北海道）1753.	中　込　恵　子（甲府第一高）612.
第20回大会	(87'７．25～26．京都府・日吉胡麻総合運動広場)	
男　子	三本木農業高（青　森）1876.	鎌　田　芳　彰（幕　別　高）643.
女　子	折　尾　高（福　岡）1775.	大　城　春　野（宜野湾高）611.
第21回大会	(88'７．26～27．北海道・旭川市)	
男　子	北大津高（滋　賀）1883.	吉　田　賢（甲府第一高）657.
女　子	折　尾　高（福　岡）1881.	岩　山　美　保（折　尾　高）635.
第22回大会	(89'７．26．～27．福岡県・北九州市)	
男　子	柏　陵　高（福　岡）1685.	山　本　敦（永　谷　高）603.
女　子	旭　川　北　高（北海道）1802.	鈴　木　知　子（桜　丘　高）634.
第23回大会	(90'７．27．～28．石川県・柳田村)	
男　子	柏　陵　高（福　岡）1917.	宮　永　雅　史（柏　陵　高）657.
女　子	折　尾　高（福　岡）1796.	森　本　淳　子（同志社高）626.
第24回大会	(91'７．27．～28．山形県・鶴岡市)	
男　子	同　志　社　高（京　都）1813.	藤　原　悟（広島工業高）630.
女　子	折　尾　高（福　岡）1681.	岡　野　善　恵（甲南女子高）578.
第25回大会	(92'７．26．～28．香川県・財田．仲南町)	
男　子		
女　子		
平成５年度	全国高等学校総合体育大会　第26回大会(93'８．１～　．　．　県・　)	
男　子		
女　子		

選　手　権　大　会　記　録

[団体の部]

《男子》横　浜　高（神奈川）1925
- 山本　博　670（323.347）
- 臼井　肇　628（294.334）
- 足立　朋美　627（299.328）

・第13回大会

《女子》折　尾　高（福　岡）1881
- 岩山　美保　635（299.336）
- 坂田美穂子　624（291.333）
- 岡部　由布　622（290.332）

・第21回大会

[個人の部]

《男　子》

ハーフ・R	山本	博	670（323.347）	神奈川・横浜高・第13回大会
５０　M	山本	博	323	神奈川・横浜高・第13回大会
３０　M	山本	博	347	神奈川・横浜高・第13回大会

《女　子》

ハーフ・R	児玉	晶子	648（310.338）	鳥　取・米子北高・第18回大会
５０　M	児玉	晶子	310	鳥　取・米子北高・第18回大会
３０　M	鈴木	知子	341	愛　知・桜ヶ丘高・第22回大会

選抜大会　栄光の歩み

【男　子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	90m 70m 50m 30m	期日	開催地
1	河合徳之	浜松工	1199	246. 309. 306. 338.	'83. 3 .25-27	愛知・森林公園
2	角田信一	馬頭	1154	259. 277. 294. 324.	'84. 3 .25-27	静岡・富士見市
3	松田武文	米子北	1131	208. 288. 301. 334.	'85. 3 .25-27	滋賀・秦荘町
4	田中喜美男	横浜	1198	265. 300. 294. 339.	'86. 3 .25-27	福井・芦原町
5	和田和則	馬頭	1174	234. 269. 307. 317.	'87. 3 .25-27	東京・駒沢公園
6	荒金利剛	米子北	1164	237. 282. 318. 327.	'88. 3 .25-27	大阪・久米田高
7	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3 .25-27	神奈川・横浜高
8	赤井雅宏	北大津	1200	252. 307. 306. 335.	'90. 3 .25-27	兵庫・神戸市
9	田中勝美	横浜	1214	277. 321. 291. 322.	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
10	厚海善栄	田村	1216	259. 316. 307. 334	'92. 3 .25-27	京都・山城総合

【大会記録】

TOTAL	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
90m	田中勝美	横浜	277	第9回選抜大会	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
70m	田中勝美	横浜	321	第9回選抜大会	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
50m	荒金利剛	米子北	318	第6回選抜大会	'88. 3 .25-27	大阪・岸和田高
30m	於久直人	北大津	343	第7回選抜大会	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高

【女　子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	70m 60m 50m 30m	期日	開催地
1	上鹿渡由美	北海道清水	1183	285. 303. 270. 325.	'83. 3 .25-27	愛知・森林公園
2	田中志律	千葉英和	1124	257. 268. 274. 325.	'84. 3 .25-27	静岡・富士見市
3	藤本正美	大津商業	1195	265. 299. 296. 335.	'85. 3 .25-27	滋賀・秦荘町
4	大城春野	宜野湾	1153	276. 286. 272. 319.	'86. 3 .25-27	福井・芦原町
5	松宮真由美	丹南	1207	283. 299. 306. 319.	'87. 3 .25-27	東京・駒公園沢
6	近藤真弓	信愛学園	1216	287. 312. 292. 325.	'88. 3 .25-27	大阪・久米田高
7	小山美代子	菟道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3 .25-27	神奈川・横浜高
8	高木祐子	富士見	1177	263. 289. 305. 320.	'90. 3 .25-27	兵庫・神戸市
9	谷口和子	折尾	1214	288. 316. 280. 330.	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
10	大内愛	山陽女子	1215	294. 304. 293 324	'92. 3 .25-27	京都・山城総合

【大会記録】

TOTAL	小山美代子	菟道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
70m	長見みどり	山陽女子	296	第7回選抜大会	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
60m	池田敦美	天真学園	316	第7回選抜大会	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高
50m	松宮真由美	丹南	306	第5回選抜大会	'87. 3 .26-28	滋賀・奏荘町
30m	森山靖子	折尾	337	第7回選抜大会	'89. 3 .26-28	神奈川・横浜高

日本高校記録
(FITA ROUND)

平成4年1月現在
全国高体連アーチェリー専門部

〈男　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	大橋　亨	東京工業高・東京	1289 (296 323 320 350)	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
90M	三浦　一己	野津田高・東京	299	91年東京新聞杯大会	91.6.2	東京・世田谷区
70M	大橋　亨	東京工業高・東京	323	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
50M	藤原　悟	広島工業高・広島	330	91年中国地区選手権	91.9.22	広島・千代田町
30M	大橋　亨	東京工業高・東京	350	89年東京都秋季大会	85.10.8	東京・世田谷区
ハーフ	山本　博	横浜高・神奈川	670 (323 347)	第13回全国高校選手権	80.8.3	滋賀・秦荘町
50M	鎌田芳彰	幕別高・北海道	325	第41回「かいじ」国体	86.10.14	山梨・敷島町
30M	田島光浩	愛知高・愛知	350	第41回国体地区予選	86.8.30	岐阜・関市
ハーフ 団体	光田　健 西川清一 宮永雅史	柏　陵・福岡	1955 663 (321.342) 646 (302.344) 646 (311.335)	90年福岡県高校総体	90.6.3	福岡・福岡市
ダブル (参考)	松田武文	米子北高・鳥取	2450 1226 1224	第27回全日本選手権	85.11.9～10	山梨・敷島町

〈女　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	児玉晶子	米子北高・鳥取	1275 (305 323 308 339)	第27回全日本選手権	85.11.9	山梨・敷島町
70M	谷岡　和子	甲南女子高・兵庫	317	全日本選手権県予選	91.4.7	兵庫・しあわせの村
60M	西又　良美	柳田農業高・石川	326	91年県月例競技会	91.6.23	石川・金沢市
50M	村上　千夏	折尾高・福岡	319	91年全九州選手県	91.9.1	福岡・小国町
30M	井上鹿代子	富士見高・静岡	348	89年地区大会	89.6.11	静岡・田方郡
ハーフ	井上鹿代子	富士見高・静岡	653 (316 337)	89年静岡県高校総体	89.6.4	静岡・天竜市
50M	宮岸かおり	札幌啓北高・北海道	320	第44回国体地区予選	89.8.4	北海道・旭川市
30M	岩波ひろみ	大津商高・滋賀	343	第38回国体地区予選	83.8.21	奈良・奈良市
ハーフ 団体	岩山　美保 岡部　由布 羽広　智美	折尾高・福岡	1899 645 (306.339) 629 (299.330) 625 (285.340)	88年福岡県高校総体	88.6.5	福岡・福岡市
ダブル (参考)	児玉晶子	米子北高・鳥取	2537 (1275 1262)	第27回全日本選手権	85.11.9～10	山梨・敷島町

ＦＩＴＡ世界記録・日本記録

1992年１月現在

男子総合	1352　Ｖ・エシェエイエフ（ソ連） 1990．ソ連陸海軍選手権　タシュケント	1333　山本　　博（大宮開成高校教諭） 308-338-336-351 1991．９/16　秋季関東地区 アーチェリー大会
90m	330　Ｖ・エシェエイエフ（ソ連） 1990	315　松下　和幹（三菱電機鎌倉） 1987．５/10　ナ・チーム記録会
70m	344　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1990．５/13　第23回全日本社会人選手権	344　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1990．５/13　第23回全日本社会人選手権
50m	345　Ｒ・マッキニー（アメリカ） 1982．５/23　スポーツフェスティバル	342　山本　　博（大宮開成高校教諭） 1991．９/23　中国地区アーチェリー大会
30m	357　松下　和幹（三菱電機鎌倉） 1986．７/２　天津国際競技大会	357　松下　和幹（三菱電機鎌倉） 1986．７/２　天津国際競技大会
女子総合	1370　リー・ウンキュン（韓国） 1990	1318　児玉　晶子（神奈川県） 321-332-325-340 1986．11/３　第28回全日本選手権大会
70m	336　キム・スーニュン（韓国） 1989．７/５　第35回世界大会	326　中川さつき（日本体育大学） 1989．８/25　関東学生アーチェリー 個人選手権大会本選
60m	347　キム・スーニュン（韓国） 1989．７/５　第35回世界大会	334　児玉　晶子（神奈川県） 1986．９/29　第10回ソウル・アジア大会
50m	337　リー・ウンキュン（韓国） 1990．８/５　第106回全米選手権大会	334　中込　恵子（日本体育大学） 1990．８/５　第106回全米選手権大会
30m	357　Ｊ・エデンス（イギリス） 1990．ヨーロッパ選手権・バルセロナ	349　伊藤邦栄（関西大学） 1984．10/6　第23回全日本学生 個人選手権大会

＊（　）内の所属は記録樹立時のものです。（提供・ＦＩＴＡ、㈳全日本アーチェリー連盟）

大会開催地・開催順（予定）

和　暦	西暦	ＩＨ・選手権	選抜大会	国体
平成４年	1992	香川県・二町開催	静岡県・草薙	山形県・鶴岡市
平成５年	1993	栃木県・馬頭町	滋賀県・	香川県・二町開催
平成６年	1994	富山県・宇奈月町		愛知県・岡崎市
平成７年	1995	広島県・		福島県・三春町
平成８年	1996	山梨県・		広島県・
平成９年	1997	京都府・		大阪府・
平成10年	1998			神奈川県

ＩＨは、東　地区・・・北海道・東北・関東地区（15都道府県）
中　地区・・・北信越・東海・近畿地区（15府県）
西　地区・・・中国・四国・九州地区（17県）
のローテイションで９年（中・西）に１回の開催。

その他事項

１．高等学校組織の支援について

Ｒ・マッキニー氏を通じ、アーチェリーの普及振興を図るための支援策があるとの、某社メッセージが昨年７月に本専門部宛に届けられ、専門部としても関心をもち、部長了解のもとに可能性の検討を進めてきた。

新年になって、援助への応諾問いあわせが来信し、本年２月にＲ・マッキニー氏の来日時に専門部三役との面談を持ち、支援条件や具体的諸方策についての説明を受け、専門部としての基本的な意向を早急に提示し、双方の了解時点で、協力関係の維持とアーチェリー競技の普及発展に寄与することで合意した。（細部は全国委員長会議で報告）

２．国際交流の方策について

韓国ナショナルチーム元監督のパク氏の来日に合わせ、選手の育成強化（ジュニア選手の育成指導方）について専門部関係者との座談会を持ち、韓国高校生の現状について新たな認識を得る機会がありました。

さらに、高校生の強化育成を推進を図るうえから、関係者の交流研修に発展させる可能性への意見交換があり、双方が実現へ向けて条件整備を図り進展させる話し合いが持たれた。（内容は雑誌アーチェリーに掲載）

インターハイはかく戦われる

平成５年より、いよいよ念願のインターハイ（全国高等学校総合体育大会）に、アーチェリー競技も参加することになりました。この高校総体では、従来の「全国高等学校アーチェリー選手権大会」も経年回数とともに兼ねて行われ、「輝いて見せてください青春の汗―ｉｎ栃木」のスローガンのもとに、第25回の選手権大会として、栃木県馬頭町の競技会場において開催します。

本専門部としましても、インターハイ（ＩＨ）競技方法の基本的な実施内容をほぼ煮詰め、今年４月の全国高体連「総体検討委員会」の承認をうけ、秋には最終的な競技要項の決定をみる手はずであります。

ここに、競技方法の一部を抜粋し、競技力向上への創意工夫とチャンピオンシップへの精進に、多くの期待を寄せその素案を紹介します。

インターハイは学校対抗（団体競技）が基本ですが、あわせて個人の選手権競技も実施します。競技期間としては４日間ですが、公式練習日・種目開会式を含めた５日間の大会日程を予定し、競技は２日目・３日目が団体競技の予選と個人競技の決勝を行い、４日目には団体競技の準決勝を、最終日には団体競技の決勝を執り行う予定でいます。

《日程は資料参照》

個人戦は、団体競技および個人競技のみに出場する登録選手だけを対象に、競技方法は２日制のシングル・ラウンドで争い、この２日間の144射をもって個人戦の全てを終了し、また、同時に団体競技の予選も兼ね準決勝への出場権を競い、男女各上位24チーム（校）を予選通過チームとします。

準決勝からは、グランド・ラウンドの競技方法で行い、予選通過チームの男女を別々に分け、決勝へのチーム出場権をかけ、より集中した36射の争いに観衆を大いにわきあがらせるものと考えます。

ファイナルでは、男女各12チームが出場権を得て、チーム全体が一丸となってチャンピオンシップをめざし、36射の戦いは最後の１射まで全く予断を許さない、ホットでドラマチックな展開に期待するところです。

この他に、団体戦のみに限って補欠選手との交替方式も設定され、競技前日の補欠登録選手との交替届け出システムです。これにより、各チームには選手のコンディショニングの把握と得点能力への確実性が求められ、マネージャー等の勝利に対する比重が一層増すものと思われます。

表彰は、団体・個人ともに選りすぐられた男女の各１位～６位までを、表彰対象チーム（人）にと考えています。

【競技方法】・・・［要項（案）抜粋：確定は平成４年11月の予定］

(1) 団体競技および個人競技

ア．競技方法は、団体競技の予選および個人競技はシングルラウンドで行い、団体競技の準決勝・決勝はグランド・ラウンドで実施する。

イ．成績順位は、個人競技では144射の記録をもって決定し、団体競技においては競技出場選手３名（同一校）の個人得点の合計をもって決定する。

ウ．団体競技の予選通過チーム数は、男女各上位24位までとする。同得点の場合には、最高の個人得点を得た選手が所属するチーム（校）が上位となる。

エ．団体競技の準決勝は、男女ともに長距離から短距離にかけ、各距離で９本（各々３射×３回）の36射とし、男女各上位12位までが決勝への出場権を得る。

オ．団体競技の決勝は、男女ともに短距離から長距離にかけ、上記（エ）と同様の行射方法をもって、それぞれの順位を決定する。

カ．同得点のために、準決勝の12位（１校の確定）及び、決勝の１位～６位（各１チーム）の確定ができない場合は、同一メンバーによる３射１回のシュート・オフ（当日の最終距離）により確定する。

(2) 選手の登録と交代

ア．団体競技のエントリーは４名とし、申し込み書に記載された上から順の３名を、団体競技に登録された正選手とする。

イ．選手の交代は、団体競技に限ってエントリーされた補欠選手との交代を認める。なお、申し込み後においては、エントリー選手の変更は認めない。

ウ．交代の届け出は、監督会議の開催前まで、または準決勝が開催される前日の午後５時までとし、競技本部で承認を得たものに限り認めるものとする。

エ．準決勝及び決勝においては同一選手の継続行射でなければならない。

(3) 行射方法および得点記録

ア．団体競技の予選並びに個人競技は、１標的同時２名の２立（ＡＢ・ＣＤ）とし、団体競技の準決勝・決勝は、１標的同時３名（同一チーム）の１立する。

イ．シングル・ラウンドの行射は、長距離では２エンド（３射×２回）毎に、短距離では１エンド毎に矢取りとする。試射は、各日ともに最初の距離において、長距離では６射・短距離では３射を行う。

ウ．グランド・ラウンドの行射は、全ての距離で１エンド毎に矢取りを行い、競技開始前に最初の距離で３射１回の試射を行う。

エ．得点記録は、当該標的を使用する選手の相互確認（マーカー）方式とし、得点記録員がスコアーシートに記入する。

オ．得点記録の報告における虚偽や不正申告の場合には、当該標的を使用する選手の

確認不履行として、同一標的使用者全員を失格処分とすることがある。

カ．準決勝・決勝においては、審判員による得点記録方式とし、チーム得点を速やかに得点板に表示する。

【競技日程・方法等】

日程	内容	時刻	性別	種類	摘要		
1	監督会議	午前					
	公式練習 開会式	午後					
2	団体戦（予選） ・ 個人戦（決勝）	午前	男子	S・R	90～70m	36射×各距離	72射
		午後	女子		70～60m		
3		午前	男子	S・R	50～30m	36射×各距離	72射
		午後	女子		50～30m		
	個人表彰式		競技終了後に実施（出場選手は全員参加）				
4	団体戦（準決勝）	午前	男子	G・R	90-70-50-30m	9射×各距離	36射
		午後	女子		70-60-50-30m		
5	団体戦（決勝）	午前	男子	G・R	30-50-70-90m	9射×各距離	36射
			女子		30-50-60-70m		
	団体表彰式 及び 閉会式	午後	昼食休憩後に実施（決勝出場選手は全員参加）				

（競技委員会）

記 録 収 集 に つ い て

競技委員会

記録収集の意義につきましては組織の歴史であり、同時に将来的な発展の最も大きな源動力となるべきものであります。競技力の向上、組織の活性化、競技の普及拡大、すべてこの記録無しには考えられません。つきましては記録送付及び記入要領は下記の要領でお願いします。

【1】送付記録は原則としてコンピュータデータの形式とする。

【2】種別、種目、項目は従来通りとする。

【3】各都道府県で【2】の2種別、6種目について競技者のランキングを作成し、そのデータを送付する。

【4】送付用フロッピーディクスは競技委員会記録部より配布するので、その中に入力する。

【5】記録送付競技会

(1) 都道府県高等学校体育連盟主催の競技会

(2) 全ア連主催あるいは各県公認競技会・予選会

データ入力上の注意

【1】各項目のセル幅について

(1) セルを移動すると画面左上にセル番地と共に数字が出ますが、これは設定されたセル幅です。出ないのは標準のセル幅（半角10）です。

(2) セル幅の変更はしないで下さい。

【2】各項目への入力について

(1) 順位

各県単位の順位はつけても良いが、送付用は消去して下さい。

(2) 氏名

全角左詰めとします。（全角6文字）

例　氏2文字　名2文字　□□□□

氏2文字　名1文字　□□　□

氏1文字　名2文字　□　□□

氏3文字　名3文字　□□□□□□

氏3文字　名1文字　□□□　□

(3) 所属県名

全角左詰め文字入力とします。（全角3文字）

都・府・県の文字はいりません。

(4) 登録番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角９文字）

例　25H015005

　　42H021001

(5) 学校番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角５文字）

例　40H01

　　11H04

(6) 学校名

全角左詰めとします。ハーフ・シングル（半角10）、団体（半角11）５文字内で入力します。学校名の後に高校・高の文字は５文字以内ならば、つけて下さい。

(7) 学年

半角、数値入力とします。

(8) 合計

各種目の距離別小計は数値入力とします。

種目の合計欄には計算式が書き込まれている筈ですから、各距離得点へ入力して下さい。

団体は必ずチームの１位・２位・３位の順に左から入力して下さい。

（団体順位のソートは団体合計・１位得点・２位得点の順に実行します）

(9) 日時

日時は半角数字（文字）入力します。年は不要です。

例　08/03

　　11/03

　　10/10

(10) 競技会名

全角５文字位で入力して下さい。

例　長崎県民体育大会……長崎県体又は県体

(11) 会場名

全角入力とします。（全角６文字）

セル幅は全角６文字に設定しています。これを越えても入力はできますが、長過ぎると製本時に切れることがあります。

開催された県名／会場地名を入力します。（／を間に入れて下さい）

例　埼玉／上尾橘

　　大分／狭間町

グラウンド等はGで省略して下さい。
例　田布施高校グラウンド……田布施高校G

【3】得点記録集計のディスクについて

(1) LOTUS−123　R2.1JまたはR2.2Jで作成されたデータとする。

(2) ディスクは原則として3.5”(2DD.HD)を使用するが、5”(2HD)でも良い。

(3) ディスクは必ずコピーディスクにラベルをつけ、県名・入力責任者名・住所を記入して送付する。

【4】送付先及び締切期日

送付先　〒856　長崎県大村市森園町1079-3
長崎県立大村工業高等学校
機械科　大塚　敬輔　宛
ＴＥＬ　0957 52-3772・3773　内線45
ＦＡＸ　0957 52-3773

締切期日　当該年度の12月20日（必着）
遅れると製本期日の都合上記載されない場合があります。

問合わせ　質問・問合わせは上記住所・電話番号へお願いします。

高校公認記録規程

第１条　全日本アーチェリー連盟（以下「全ア連」という。）規約第11章第136～143条にもとづき、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「本専門部」という。）規約第８章第11条第３項により競技記録公認規定をこれにより定める。

第２条　本専門部の加盟・登録者が、この規定の定めるところにより、その加盟学校および登録構成員が、以下にかかげる諸条項のもとに行われた競技会において作られた記録に限り公認申請することができる。

第３条　日本高校記録は、全ア連競技規則第137条の外、次の条件を満たすこと。

１）当該年の４月１日現在18歳未満の高校生の記録であること。ただし、定時制生徒は19歳未満とする。

２）⑴全ア連が公認した競技会における記録。

⑵各都道府県単位または地域高校競技会の記録。

ただし、印刷したプログラムがあり、競技委員長・審判長・射場長は公認審判員であること。

⑶ハーフラウンド及びハーフラウンド団体の記録は、ハーフラウンドの競技会の記録であること。

第４条　前条にかかげる競技会には、次に定める諸条件が具備されていなければならない。

１）各都道府県高体連に学校加盟し、本専門部に加盟・登録していること。

２）団体の記録は同一学校、同一課程の編成であること。

３）インター・ハイ本大会に準じた、相互得点記録方法であること。

第５条　個人の距離別の記録公認については、第３条に規定された競技会において樹立されたものを申請することができる。

第６条　前条に定める競技会の記録公認申請は、競技の日より原則として１カ月以内に主催または主管団体長が前条の確認をなし、全ア連所定の記録承認申請書（本専門部様式－６）に必要事項を記載し、全ア連事務局に提出するものとする。

第７条　全ア連理事会で審査の結果、新記録として承認されたときは、その旨を本専門部においても発表し、高等学校記録証を交付する。

第８条　毎年12月10日付をもって、各都道府県高体連ア専門部または各都道府県ア協会は

第３条に定めた競技会にる当該都道府県の高等学校最高記録を保管し、その写しを毎年12月20日までに本専門部事務局まで送付しなければならない。

第９条　本規定は、本専門部委員会において改廃する。

第10条　本規定は昭和57年５月９日より施行する。

昭和60年４月１日一部改正

昭和63年２月11日一部改正

申請書送付先

〒150　東京都渋谷区神南１－１－１

岸記念体育会館内　全日本アーチェリー連盟　宛

平成　　年　　月　　日

全日本アーチェリー連盟

会　長　　殿

主催者名

主管団体名

会　長　名　　㊞

新記録の樹立承認申請書の送付について
（申　　請）

標記のことについて、下記の通り新しい記録が樹立されましたので、ここに関係書類を添えて申請いたします。

なお、関係書類の到着のうえは、書類内容の点検をいただくとともに念のため受領確認書を送付くださるようお願いします。

記

1．内容記録：記録申請

2．送付書類：ア）記録承認申請書……1　部

イ）スコアーシート（写）…1　部

ウ）競技会プログラム……1　部

エ）競技会成績表……1　部

以　上

受領確認	全日ア連	受付月日：　　月　　日
		確認者： 氏　名：　　㊞

（上記記入のうえ、複写書類を返送下さい）

（様式－６ア）　　平成　　年　　月　　日

全日本アーチェリー連盟会長殿

主管団体名
会　長　名　　㊞

記録承認申請書

下記の通り新記録が樹立されましたので、ここに承認申請をいたします。

申請内容		日本記録		日本高校記録		日本国際記録			
競技会名	第　　回								
期日	平成　　年　　月　　日～　　月　　日.（　　日間）								
会場									
区分・種別		団体		個人		男子		女子	
種目・距離		ハーフ・R		シングル・R		ダブル・R		グランド・R	
		個人TOTAL		個人距離	90.　70.　60.　50.　30.m				
競技者名	（学校・所属名） ＿＿＿＿＿＿	①氏　名：　　登録番号　H　－							
		②氏　名：　　登録番号　H　－							
		③氏　名：　　登録番号　H　－							
記録内容	団体記録	合　計：＿＿＿＿点 ①＿＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点） ②＿＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点） ③＿＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点）							
	個人記録	点（　　，　　，　　，　　点）							
	距離記録	m：　　点（　　点・　　点） m：　　点（　　点・　　点）							
競技会責任者	競技委員長または審判長の署名・捺印　　㊞								
備考	１．申請書は、新記録が樹立された種目毎に１枚あて提出すること。 ２．添付種類は、①スコアーシートーの写し（コピー可）. ②競技会プログラム. ③競技会成績一覧表.　　を提出すること。 ３．未登録の場合、記録樹立後の競技者登録および承認申請書の提出は、いかなる理由があっても認められない。								

服 装 規 定 に つ い て

競技部　競技委員会　細則
昭和６２年２月１１日改定

［服装等に関する規定］

１．選手およびマネージャーのユニホームは、帽子・上衣・下衣・靴下・靴にいたる、全ての装着品が、完全にチーム内で統一されていること。なお、競技場内に立ち入る監督は、白スラックスまたは白スカートに白地の運動靴でなければならない。

２．競技用服装

ア）上　衣　　学校名または校章および所属の都道府県名を明記すること。

イ）下　衣　　白スラックスまたは白スカートとする。

これら製品の全体（部分的な装飾・デザインを含む）が白色の範囲で、競技スポーツの機能を適合するフォーマルなスラックスまたはスカートとする。（下記に示す部分の異色装飾および、商品（製品）名については、その使用を一切認めない。）

［部分的な装飾］

ａ．ライン・ステッチ・ポケット部分の縁取り等。

ｂ．ベルトレス部分の白色以外のライン・テープ等。

［白ジーパン・綿パン］

ウ）帽子等　　帽子・ヘアーバンド・はち巻きは、白地のものとする。

エ）靴　　靴は、アップシューズ型の運動シューズとする。

［服装検査の解釈と取扱基準］の範囲

１．帽子等　　色……白色または白色系統を基調にしたもの。

型……野球帽．テラピンチ．チュウリップハット。

（サンバイザー．ヘァーバンド．ハチ巻き等は使用可）

装飾……教育活動に相応しい範囲のもの。

（全体または一部に縁取り・デザインテープは使用可）

［使用不可］

１）教育活動の場や機能として相応しくないもの。

２）誇大な商標．商品名．メーカー名等の宣伝に資するもの。

2．上　衣　　色……同一の色彩・色調で統一されたもの。

（経年による自然脱色変化…使用可）

型……同一の形態で統一されたもの。

（半袖・長袖を問わず、使用時は一方に統一のこと。）

（半袖時の長いアンダーウエアー…使用可）

素材……同一の使用素材で統一されたもの。

表示……都道府県．学校名または校章を統一表示のこと。

（名称は邦字・ローマ字のいずれかで表記のこと）

[使用不可]

1）教育活動の場に相応しくないもの。

2）校章以外のマーク。（例：マスコットマーク・アップリケ等）

3）誇大な商標．ワンポイントマーク等。基準：3㎠程度以）

4）デザイン・名称表示（県名・校名・マーク）の不均質な差異。

3．下　衣　　色……純白～白色の範囲内であること。

（使用頻度による耐用変色の範囲 …… 使用可）

（織布自体のアイボリー・クリーム色 …… 不許可）

内容……スラックスまたはスカートで統一されること。

（フォーマルなスポーツ・スラックスのみ …… 使用可）

型……形態的な統一と、競技スポーツ全般に使用可能のもの。

（同一メーカーの同素材・同デザインのみ …… 使用可）

装飾……全体・一部のアクセント・ポイントとしての飾り等

（ベルトレス・ステッチ．ポケット縁取り）であっても純白～白色の範囲内であること。

[使用不可]

1）教育活動の場に相応しくないもの。

（例：遊び着・タウン着・私服に類するもの）

2）誇大な商標．ワンポイントマーク。（基準：3㎠程度以上）

3）同一メーカーの同品番であっても、購入年度差による全体的な形態的・デザイン的差異。または、チーム内のメーカー間差異。

（チーム内の統一とはみなさない。）

4）純白～白色の範囲以外のベルトレス．ステッチ．ポケット縁取り等の装飾および装飾アクセント類に属するもの。

5）素材、織布自体のアイボリー・クリーム色類の色調。

6）綿パン．ジーパン．キュロットスカートまたはレジャー着等。

4．靴　下　　半・長ソックスも白色で統一のスポーツソックスであること。

（最小限のライン・ワンポイントマーク…使用可）

5．靴　　内容…スポーツシューズ（布または皮革製のゴム底）

型……アップシューズ型（紐等で幾重にも締上げ可能なもの）

［使用不可］

1）カジュアル．ダンス・半バス・タウン・編みあげ型等のレジャーまたはタウンシューズ類に属するもの。

6．その他（防水・防寒衣類）

：防寒・防水については、現行は規定せず。

［規定の適応と指導遵守］

各都道府県における競技会時には、各学校顧問の指導によって上記の服装規定の認識と適応・遵守を選手に義務付け、各地域大会および全国大会時の府県間格差の解消に努めるとともに、各県毎に永続的な指導を図ること。

上記の規定範囲外の運用は、教育活動の一環と全体の流れに照らした判断指導処置を、各都道府県の競技会実施責任者の裁定に委ねる。

平成４年３月一部改正

大会実施要項に記載すべき内容（各都道府県内大会）

1．大 会 名……ア．平成〇〇年度、第〇〇回
　　イ．大 会 名（兼.第１次予選、第２次予選、最終予選）
2．期　　日……ア．平成〇〇年〇月〇〇日（　）～〇月〇〇日（　）
　　イ．平成〇〇年〇月〇〇日（　）開始　　時　　分～
3．場　　所……ア．〇〇高等学校グランド.（ＴＥＬ　　―　　―　　）
4．主　　催……ア．〇〇県教育委員会、〇〇市教育委員会
　　イ．〇〇県高等学校体育連盟
5．主　　管……ア．〇〇県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
　　イ．〇〇県高等学校アーチェリー連盟
6．日　　程……ア．開会式、競技開始、競技終了、表彰式（時間明示）
7．参加資格……１）全日本アーチェリー連盟ならびに全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部に生徒会員登録する高等学校生であること。
　　２）学校長の出場許可があり、当該高等学校教員が引率してくること。
　　３）年齢は、４月２日を起算日とし19才未満の生徒とする。
　　４）チーム編成において、全日制課程、定時制課程、通信制課程の生徒による混成は認めない。
8．参加制限……１）参加制限内容の明示
　　２）　　〃
　　３）参加申込み後のメンバー変更は認めない。
9．競技規定……平成〇〇年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適応する。
　　１）競技種目
　　ａ．ＦＩＴＡ〇〇〇〇ラウンド競技とし、学校対抗・個人戦を実施する。
　　ｂ．学校対抗（団体の部）は、各校上位３名の得点を合計し成績決定する。
　　ｃ．学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。
　　２）競技方法
　　ａ．各距離とも１標的１名で、Ａ・Ｂ・Ｃの３立制で実施する。
　　ｂ．試射は、ＡＢＣ．ＡＢＣの３射×12回の６射以内を最長距離で実施する。
　　ｃ．行射はＡＢＣ／ＣＡＢ／ＢＣＡの順で、３射毎に得点記録・矢

取りを繰り返す。

3）得点記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告ならびに自己記入は、全て失格矢の取扱いとし得点を認ない。

a．的中する矢の得点判読と記入は、その矢を所有する競技者以外の者が全てを呼称し、同標的を使用する他の競技者がシートに記録を記入する。

b．同標的を使用する全競技者が、相互にローテーションして的中得点の呼称とシート記入の確認者となって、得点記録を実施する。

c．得点判読・誤記入等で疑義がある場合には、審判員の判断をあおぎその判定を最終のものとする。

10. 服装規定……　開・閉会式および競技中の服装は、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制定する服装規定の通りとする。

11. 表　　彰

12. 参加費用

13. 連絡事項

14.そ の 他

プログラム作成の基準について

Ⅰ．目　　的

各県が作成するプログラムの記載内容を統一するとともに、相互の連携を以て組織の充実と地域編成を推し進めるため、この基準を定める。

Ⅱ．対　　象

加盟各都道府県の高等学校生徒を対象とする競技会プログラムとし、出来るかぎり速やかに対応すること。

Ⅲ．作成基準（次の通りとする。）

1．内　　容

県内における高等学校アーチェリー競技会に相応しい掲載内容とする。

（広告は努めて掲載しないことが望ましい。）

2．規 格 等

ア）規　格　Ｂ－５判サイズ、紙質：中質紙

イ）様　式　横書き（縦左とじ：右山折り返し）

ウ）書　式　手書き・タイプ印刷等

Ⅳ．掲載内容等（次のとおりとする。）

①［おもて　表紙］

1）大会名

2）期日・会場名

3）主催・主管

4）参加校数

5）大会・競技役目

②［表紙みかえし］＝（表紙裏）

1）競技日程

2）式典次第

3）参加校顧問名・出場選手数一覧表（男女別）

③［掲載内容等の順］

1）栄光のあゆみ（過去の成績）……Ｐ．１

2）大会記録・県高校記録

3）参加資格・制限……Ｐ．２

4）競技規定

ア．競技種目

イ．競技方法

ウ．得点記録の方法

④立順組合せ一覧表（男女別）……Ｐ．３～

⑤成績表……Ｐ．３最終頁

（作成にあたっては、以下を参照のこと。）

①［表　紙］

大　会　名

平成　　年度
○○県高等学校□□アーチェリー競技会
（兼．全国高等学校選手権△△予選会）

□□…春季・秋季・県民
△△…１次・２次・最終

期　　日　平成○○年○月○○日（　）～○月○○日（　）
会 場 名　○○高等学校グラウンド（○○市民アーチェリー射場）
主　　催　○○県教育委員会　○○県高等学校体育連盟
後　　援　上部団体（県教委・県高体連の指導に従うこと）
主　　管　○○県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
参加校数　男　子　○○校　○○○名
　　女　子　○○校　○○○名

大　会　役　員

大 会 会 長（高体連会長ｏｒ協会会長）
大会副会長（高体連副会長ｏｒ協会副会長）
大会委員長（専門部部長ｏｒ協会理事長）
大会委員（専門部副部長ｏｒ協会副理事長）

競　技　役　員

競技委員会（専門委員長）
競技副委員会（専門副委員長）
総　　務・式典表彰・広　報　係・救　護　係
審　判　長・審　判　員
射　場　長・計　時　係・計　測　係・会　場　係
本部記録・記　録　係
・記録通報（本連盟へ競技会記録を報告する責任者）

②［表紙みかえし］

競技日程　○月○○日（　）
開　会　式　○○時○○分～
競技開始　○○時○○分～（学校対抗）（個人戦）
競技終了　○○時○○分
閉　会　式　○○時○○分～

式典次第

［開　会　式］	［閉　会　式］
選手集合・整列	選手集合・整列
1．開　会　宣　言	1．開　式　通　告
2．優　勝　杯　返　還	2．成　績　発　表
3．大会会長挨拶	3．表　　彰
4．審　判　長　注　意	4．審　判　長　講　評
5．選　手　宣　誓	5．大会会長挨拶
6．閉　式　通　告	6．閉　式　通　告
選手退場・解散	選手退場・解散

参加校の顧問名・出場選手数一覧表（男・女別計）…参考様式

学　校　名	男　子		女　子		合　計		顧　問　名
	団体	個人	団体	個人	団体	個人	

③［過去の成績］（各年度・回数別に）参考様式

男女別　団体　優勝校名・記録［得点合計（上位３人の得点内訳）］

〃　　個人　優勝者名・記録［得点合計（50m・30mの得点内訳）］

年	回	性	団　　体	個　　人
**	1	男	○　○　高1930（660.640.630）	○○○○（＊＊高）650（610.640）
		女	◇　◇商高1870（630.630.610）	◇◇◇◇（＋＋高）640（610.630）
++	2	男		
		女		
++	3	男		
		女		

④［大会記録］

［団体男子］

○　○　　高　1930（第○○回大会）

- ◇◇　◇◇660（320．340）
- □□　□□640（310．330）
- △△　△△630（315．315）

［団体女子］

○　○　　高　1870（第○○回大会）

- ◇◇　◇◇635（310．325）
- □□　□□620（300．320）
- △△　△△615（300．315）

［個人男子］

△△　△△（□□高）　６４５（３１０．３３５）

（第○○回大会）

［個人女子］

△△　△△（□□高）　６３５（３１０．３２５）

（第○○回大会）

県高校記録

［団体男子］

◇◇　高　１９３１

（第○○回大会）

- ◇◇　◇◇６５１（３２０．３３１）
- □□　□□６４５（３１５．３３０）
- △△　△△６３５（３１５．３２０）

［団体女子］

◇◇　高　１８８０

（第○○回大会）

- ◇◇　◇◇６３０（３１０．３２０）
- □□　□□６３５（３１０．３２５）
- △△　△△６１５（３０５．３１０

［個人男子］

○○　○○（◇◇高）６８０（３３０．３５０）

（第○○回大会）

［個人女子］

○○　○○（◇◇高）６５０（３１０．３４０）

（第○○回大会）

⑤［参加資格］

１）高等学校に在籍する生徒で、平成　年度「全日本アーチェリー連盟」に生徒競技者登録を完了したものであること。

２）年令は４月２日を起算し、18才未満の生徒とする。ただし、同一学年での出場は１回限りとする。

参加制限

⑥［競技規定］

平成○○年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適用する。

１．競技種目

１）ＦＩＴＡハーフ・ラウンド競技とし、学校対抗・個人の部を実施する。

２）学校対抗（団体）の部は、各校上位３名の得点を合計し成績決定する。

３）学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。

２．競技方法

１）各距離とも１標的１名で、Ａ・Ｂ・Ｃの３立制で実施する。

２）試射は、ＡＢＣ．ＡＢＣの３射×２回の６射以内を最長距離で実施する。

3）行射の順序は、各距離ともＡＢＣ矢取り、ＣＡＢ矢取り、ＢＣＡ矢取りの順とし３射毎に得点記録、矢取りを繰り返し行う。

4）立ち遅れ、立ち残りは指導警告とし、度重なる警告は失格処置とする。

3．記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告ならびに自己記入は、全て失格矢の取扱としこの得点を認めない。

＊　大会実施時の要領（参考表記）

① 的中する矢の得点帯の判読と記録記入は、その矢を所有する競技者以外の者が全てを呼称（判読）し、同標的を使用する他の競技者が高得点が高得点から順に、スコアーシートに記録を記入する。

（例：ゼッケンＡの選手は、ゼッケンＢの選手の的中矢の得点を判読し、ゼッケンＣの選手が、スコアーシートへ記録記入を行う。）

② 同標的を使用する全競技者が相互にローテーションし、的中得点の呼称とスコアーシートの記入と確認を行って得点記録を実施する。

③ 標的の的中孔×又はL印は、使用する選手側で記入を実施すること。

4．服装規定

開・閉会式および競技会ともに、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制定する服装規定の範囲とする。

⑦［立順組合せ］一覧表（男女別）…参考様式

（男子の部）

校名	ゼッケンNO	選手名	学年	得点		個人		団体合計
				50m	30m	合計	位	（順位）
○○○高校	1－A							（順　位）
	2－A							
	3－A							
	4－A							
△△工高校	1－B							（順　位）
	2－B							
	3－B							
	4－B							

⑧［成績表］

第〇〇回　高等学校□□アーチェリー競技会

成　　績　　表

92.　.　.

［団体男子］　　於：◇◇高校

順位	学　校　名	得　点	得　点　内　訳			
			選　手　名	50m	30m	TOTAL
1						
3						

［個人男子］

順位	選　手　名	学年	学　　校　　名	得　点　内　訳		
				50m	30m	TOTAL
1						
2						
3						

その他事項

1）既に加盟する高体連が、プログラムの作成を規定する場合には、その規定を優先し指示事項に従うものとする。ただし、上記に規定する項目・内容等を順不同であっても網羅記載すること。

2）未だプログラムの作成基準を定めないその他の都道府県においては、上記に記載する項目・内容順にプログラムを編集作成すること。

注意事項

1）大会の主催・後援等の共催申請は、早目に関係機関・団体に申請し、編集製作時には共催名義の了解を得ておくこと。

2）大会役目・競技役員の委嘱は早目に作成し、各役員の所属する勤務先の直属上司宛に、２週間前までには発送し依頼しておくこと。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約

第 1 章　名　　称

第１条　本部は全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部と称する。

第２条　本部の事務局は部長指定の学校に置く。

第 2 章　目　　的

第３条　本部は全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」と称する）規約第３条に基づき、高等学校におけるアーチェリー競技の健全な育成発展を図ることを目的とする。

第 3 章　事　　業

第４条　本部は第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1)　全国大会開催に関する事項の審議並びに執行。

(2)　アーチェリーの普及並びに競技力の向上に関する事項。

(3)　アーチェリーの講習及び調査研究。

(4)　関係団体との連絡。

(5)　その他目的達成に必要な事項。

第 4 章　組　　織

第５条　本部は全国高体連規約第６条に基づき、各都道府県アーチェリー専門部をもって組織する。

第 5 章　役　　員

第６条　本部は次の役員を置く。

１．部　長　　１名　　２．副部長　　若干名　　３．委員長　　１名

４．副委員長　　若干名　　５．常任委員　　９名＋若干名

６．委　員　各都道府県より１名　７．監　事　２名　８．事務局長　　１名

(2)　本部は顧問を置くことができる。

第７条　役員の任期は２ヶ年とする。但し、再任は妨げない。補欠によって就任した役員

の任期は前任者の残任期間とする。

第８条　本部の役員は校長，教諭より選出する。但し、顧問を除く。

(1)　部長及び副部長は委員の推薦により、全国高体連理事会の承認を得て、会長これを委嘱する。

(1)　常任委員は全国各地域(北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州)の部会において選出された１名と若干名の推薦者を部長これを委嘱する。

(3)　委員は各都道府県高体連アーチェリー専門部より１名を選出する。

(4)　委員長及び副委員長並びに事務局長は常任委員会にて選出し、委員会にて承認する。

(5)　監事は委員会で選出する。

(6)　顧問は委員会で推挙することができる。

第９条　役員の任務及び構成は次のとおりとする。

(1)　部長は本部を代表し、会務を統轄し全国高体連理事会に出席する。
副部長は部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。

(2)　常任委員は常任委員会を構成し、本部の重要事項を企画立案するとともに委員会の承認を得てその執行に当たる。

(3)　委員は委員会を構成し、本部の重要事項を審議決定する。

(4)　監事は本部の会計を監査し、その結果を委員会に報告する。

(5)　顧問は本部の組織運営について委員会並びに常任委員会の諮問に応ずる。

第　６　章　　会　　議

第10条　委員会は年１回部長が招集し、次の事項を審議決定する。但し、部長が必要と認めた場合または委員の⅓以上から会議の目的事項を示して請求があった場合は、速やかに委員会を招集しなければならない。

(1)　会議では次の事項を審議する。

ア．事業報告並びに計画　　イ．決算並びに予算

ウ．役員の選出　　エ．規約の改正　　オ．その他の重要事項

第11条　常任委員会は必要に応じ、部長がこれを招集する。常任委員は常任委員会の開催を要請できる。

第12条　委員会及び常任委員会は総員の½以上（委任状を含む）の出席がなければ開くことができない。全ての会議は部長が議長となる。

第　7　章　　専門委員会

第13条　本部の事業の遂行のため、各種の専門委員会を設けることができる。

(1)　専門委員会の名称・目的及び委員は委員会の決議を経て部長が定める。

(2)　専門委員会の規定は別にこれを定める。

第　8　章　事　務　局

第14条　本部に事務局をおく。事務局の規定は別にこれを定める。

第　9　章　規約の変更

第15条　本部の規約は委員会において、委員の⅔以上の同意を得て変更することができる。

第　10　章　　会　　計

第16条　本部の経費は補助金・助成金その他の収入によってこれをあてる。

第　11　章　　付　　則

第17条　規約の施行については必要な事項は委員会の議決を経て部長が定める。

第18条　本規約は平成１年２月11日より施行する。

総務委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき総務委員会(以下委員会と称する）を設ける。

第２条　委員会は次の事業を行なう。

１.全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第４条の事業に必要な資金を調達すること。

２．優秀選手の表彰に関すること。

３．関係功労者の表彰に関すること。

４．規約改正に関すること。

５．機関誌の発行に関すること。

６．その他部長が指定する事項を処理すること。

第３条　委員会は次の委員をもって組織する。

１．委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第４条　委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は委員会を代表し、委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　委員会は委員長が招集し、その議長となる。

第10条　委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、委員会の承認を受ける。

第11条　緊急事項で委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

昭和60年８月10日一部改正

平成元年７月27日一部改正

競技委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき競技委員会(以下委員会と称する）を設ける。

第２条　委員会は次の事業を処理する。

１．競技会開催に関する基本方針を確立すること。

２.全国高等学校アーチェリー選手権大会および選抜大会の実施方法その他の重要事項を審議すること。

３．本専門部関係の競技会開催の調整をはかること。

４．各競技会の記録整理および認定保存をはかること。

５．その他競技に関する必要事項。

第３条　委員会は、次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じ臨時の委員を置くことができる。

１．専門部部長が常任委員会の中から指名する若干名の委員。

２．全国専門委員長会で推薦された若干名の委員。

第４条　委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は委員会を代表し、委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　委員会は委員長が招集し、その議長となる。

第10条　委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、委員会の承認を受ける。

第11条　緊急事項で委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

昭和60年８月10日一部改正

平成元年７月27日一部改正

審判委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき審判委員会(以下委員会と称する）を設ける。

第２条　委員会は次の事業を処理する。

１．競技会への審判員派遣に関する基本方針を確立すること。

２．審判員養成および研修事業に関すること。

３．審判資格修得および更新に関すること。

４．その他、競技規則および審判に関する必要な事項。

第３条　委員会は、次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じ臨時の委員を置くことができる。

１．全国９地区（ブロック）の審判委員会委員長および専門部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

２．全国専門委員長会で推薦された若干名の委員。

第４条　委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は委員会を代表し、委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　委員会は委員長が招集し、その議長となる。

第10条　委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、委員会の承認を受ける。

第11条　緊急事項で委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は平成元年７月27日より施行する。

強化委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条にもとづき強化委員会（以下委員会と称する）を設ける。

第２条　委員会は次の事業を処理する。

１．強化ならびに普及活動に関する計画立案と、その推薦および指導に関すること。

２．国際競技等に代表選手を派遣すること。

３．指導者の養成および活動に関すること。

４．その他、強化、普及に関する必要な事項。

第３条　委員会は、次の委員をもって組織する。

１．委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名した若干名の委員。

第４条　委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は委員会を代表し、委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　委員会は委員長が招集し、その議長となる。

第10条　委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、委員会の承認を受ける。

第11条　緊急事項で委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日より施行する。

平成元年７月27日一部改正。

事　務　局　規　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第14条にもとづき事務局に関る規定を定める。

第２条　事務局は次の事業を処理する。

１．全国高等学校体育連盟との連絡等に関すること。

２．各大会における関係機関への連絡等に関すること。

３．全日本アーチェリー連盟と各都道府県アーチェリー協会（連盟）との連絡等に関すること。

４．各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部との連絡に関すること。

５．会員登録に関すること。

６．その他部長が指定する事項を処理する。

第３条　事務局に次の職員を置く。

事務局長　１名　　事務員　若干名

第４条　事務局長は、事務局を統轄し、事務局員を指導監督する。

第５条　事務局員の数並びにその任命は常任委員会の承認を得て事務局長が行う。

第６条　事務局員は、事務局長の命を受け、本部会の事務を処理する。

第７条　事務局長の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

附則　この規程は平成元年７月27日より施行する。

アーチェリー専門部表彰　規　　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下専門部と称する）では、表彰に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し表彰する。

第２条　この規程は全国高等学校体育連盟アーチェリー競技の普及振興に功績があった者等に対し表彰を行うとともに、全国高等学校体育連盟表彰規程の被表彰者の推薦母体に資することを目的とする。

第３条　前条に定める被候補は、次の各号から推薦するものとする。

１．本専門部長・専門委員長・専門部役員。

２．各都道府県専門部長・専門委員長。

３．その他。

第４条　表彰者の選考は部長・副部長・委員長・副委員長・事務局長があたり、常任委員会の承認を受けるものとする。

第５条　表彰は、常任委員会または全国高等学校アーチェリー選手権大会において行う。

第６条　本規程表彰者推薦のための基準は次の通りとし、重複表彰はしない。

１．本専門部長・専門委員長・専門部役員。

１）専門部役員については、３期（６年）以上とする。

２．各都道府県専門部長・専門委員長。

１）専門委員長については６年以上とする。

３．その他、特に功績のあった者。

第７条　推薦手続きは毎年４月中旬・10月中旬までに本専門部事務局宛に提出する。

第８条　経費は本専門部一般会計より支出する。

附則　この規程は昭和58年８月１日より施行する。

平成元年７月27日一部改正。

平成３年７月25日一部改正。

アーチェリー専門部慶弔　規　　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「専門部」と称する）では、慶弔に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し敬意を表わすことができる。

第２条　その基準と範囲は次のとおりとする。

１）　慶事に関して

ア）功績者および関係役員等が、他からの栄誉を称えられた場合。

２）　弔事に関して

ア）功績者および関係役員等に不幸が生じた場合。

３）　範囲

ア）記念品または弔慰金等およびこれらの電文とする。

第３条　その他、この規程に定めない特別の場合については、常任委員会の承認を得て敬意を表すことができる。

ただし、緊急の場合は部長がこれを支出し、常任委員会に報告・承認を得るものとする。

第４条　経費は本専門部一般会計より支出する。

附則　この規程は、平成２年４月１日より施行する。

連絡先および口座番号

1．事 務 局

〈登録担当〉

〒153　埼玉県大宮市堀ノ内1-615　大宮開成高校内

ＴＥＬ０４８－６４１－７１６１

ＦＡＸ０４８－６４７－８８８１

2．競 技 部

〈記録登録〉

○大　塚　敬　輔　〒856　長崎県大村市森園町1079-3

県立大村工業高校機械科内

ＴＥＬ０９５７－５２－３７７３　内線４５

ＦＡＸ０９５７－５２－３７７３

3．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局の口座

（銀行名）　協和埼玉銀行大宮支店（店番369）

（預金種目・口座番号）　普通預金　２５４７０７９

（口座・代表者名）　全国高体連ア専事務局　宮崎　利帳

4．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部総務の口座

（銀行名）　東海銀行覚王山支店　（店　番）２６４

（預金種目・口座番号）　普　通：１６１－２１５

（口座・代表者名）　全国高校アーチェリー　田　中　康　彦

5．斡旋物資申し込み先

〒４９１　愛知県一宮市丹陽町九日市場字下田11番地２

ミズノ株式会社　名古屋営業所

第一事業部　川西雄二、中島康善

ＴＥＬ　０５８６－７７－８１６１

ＦＡＸ　０５８６－７７－８１１７

あ と が き

会報の第６号をお届けできました。今年も加盟校の増加がありましたし、高体連への加盟県もありまして、ますます充実・発展しています。団体が大きくなることはうれしいことです。

さて、昨年度は初めて世界ジュニアアーチェリー選手権大会がノルウェーで開催され、高校生の派遣がありました。関係記事を三方にお願いして掲載出来ました。是非お読み頂いて、みんなが世界を目指して欲しいと思います。

また、新企画としまして、今までの優勝校紹介と併せて、学校紹介を掲載していくことにしました。６号は、北海道地区と東北地区の２校です。ローテーションで全国をまわります。各校の様子などがわかり、練習やクラブ作りに参考になるかと思います。順番に当たった地区は、争って自校紹介の執筆権を取って寄稿下さい。

聞くところによりますと、これだけの会報を発行しているところは、全国高体連の数ある競技団体のなかでも十数団体しかないそうでして、アーチェリー専門部は加入が新しいにもかかわらず、しっかりしたところがあると評判でして、喜ばしいことだと思いました。

お気付きのように、広告のページが増えています。これにより、各校への会報の配布冊数が少し増えました。各都道府県におかれまして、もし広告に協力いただける企業がありましたら、是非ご一報下さい。皆様のご協力をいただきまして、今後ますます、充実した会報にしていきたいと思います。企画案・投稿を歓迎します。

（吉田）

発行日　平成４年４月

編　集　総務委員会

発行所　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

事務局　〒330 埼玉県大宮市堀ノ内１丁目６１５
大宮開成高校内（TEL048-641-7161）
（FAX048-647-8881）

印刷所　㈱シバタプロセス印刷
〒526 長浜市神照町499-1
TEL（0749）63－６８６０㈹

Mizuno
THE WORLD OF SPORTS



確実なグリップを生む本格派。

RUNBIRD
ATHLETIC FOOTWEAR

〈ランバード〉アーチェリーシューズ
36KA-8250 ¥10,000

- 甲/人工皮革(クラリーノエフ)　● 底/VCRラバーソール
- 製法/セメント式　● サイズ/22.0～28.0

芝のグラウンドでもグリップ性、ストップ性を発揮するVCR配合ラバーソールを採用。
アッパーにはソフトで足あたりが良く、耐久性・耐水性にすぐれた人工皮革(クラリーノエフ)を採用。

ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は「ミズノお客さま商品相談センターMUSIC」●東京TEL.(03)233-7110●大阪TEL.(06)454-5001